紀美野町第2回定例会会議録

平成30年6月19日（火曜日）

○議事日程（第2号）

平成30年6月19日（火）午前9時00分開議

第 1 一般質問

○会議に付した事件

日程第1

○議員定数 12名

○出席議員

議席番号	氏 名
1 番	南 昭 和 君
3 番	七良浴 光 君
4 番	町 田 富枝子 君
5 番	田 代 哲 郎 君
6 番	西 口 優 君
7 番	北 道 勝 彦 君
8 番	向井中 洋 二 君
9 番	伊 都 堅 仁 君
10 番	小 椋 孝 一 君
11 番	美 濃 良 和 君
12 番	美 野 勝 男 君

○欠席議員

2 番 上 柏 皖 亮 君

○説明のため出席したもの

職 名	氏 名
-----	-----

副 町 長 小 川 裕 康 君
教 育 長 橋 戸 常 年 君
消 防 長 家 本 宏 君
総 務 課 長 細 峪 康 則 君
企画管財課長 坂 詳 吾 君
住 民 課 長 仲 岡 みち子 君
税 務 課 長 中 谷 昌 弘 君
保健福祉課長 湯 上 ひとみ 君
産 業 課 長 米 田 和 弘 君
建 設 課 長 井 村 本 彦 君
教 育 次 長 曲 里 充 司 君
会 計 管 理 者 北 山 仁 君
水 道 課 長 山 本 訓 永 君
まちづくり課長 西 岡 靖 倫 君
美里支所長 (細 峪 康 則) 君
代表監査委員 菊 本 邦 夫 君

○欠席したもの

町 長 寺 本 光 嘉 君

○出席事務局職員

事 務 局 長 田 中 克 治 君
次 長 井 戸 向 朋 紀 君

開 議

○議長（美野勝男君） 皆さん、おはようございます。

開会前に、昨日の大阪北部を震源とする地震の発生により、犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

上柏議員から欠席届が提出されていますので、報告します。

規定の定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

それでは日程に入ります。

本日の日程は、お手元に配付のとおりです。

（午前 9時00分）

◎日程第1 一般質問

○議長（美野勝男君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は5人です。順番に発言を許します。

11番、美濃良和君。

（11番 美濃良和君 登壇）

○11番（美濃良和君） おはようございます。今、議長さんのほうからも言われましたけれども、昨日の震災におきまして、3名の方が亡くなられ、また300人を超える方々がけがをされるというふうな大変な震災でございました。亡くなった方々への心からの哀悼を表するとともに、一日も早い災害の復興をお祈りいたします。

それでは、早速一般質問に入ってまいりたいと思います。

まず、風力発電についてお聞きいたします。

昨年の9月に配慮書が縦覧されて以来、多くの方がこの問題に取り組んでまいりました。県の審査会を傍聴いたしました。いよいよ次の段階として環境アセスメントが始まろうとしていると、そういうふうに感じるところでございます。

ところが、そのような状況にあつて、審査会を傍聴いたしまして、事前に私たちがこの会社の行いについて、押さえられる、縛られるというふうなことができるのかどうか、準備書とか書きましたが、これは方法書でございますけれども、配慮書をもとに会社が出してきた方法書での意見書ですね、回答ですね、見てみましても、本当にいろいろこれでいいんかというようなどころがあるんですね。

例えば、私たちが一番関心の高い健康の問題について、その方法書にはいろいろ書い

てますけども、早い話が、簡単なところで稼働後に、苦情、健康被害が発生した場合は、真摯な対応を心がけるとともに、まずは実態を調査し、専門家等の助言を得ながら、必要に応じて稼働時間等の適切な環境保全措置を実施いたしますと、こういうふうに書いているんですね。ですから、健康被害が発生したと言いますけれども、健康被害というものをどのように捉えるのかということについて、非常に曖昧なんですよね。大体、国のほうも認めていない、低周波の健康被害、これをさらにこの会社が認めるということについては、非常に問題がいろいろとあるというふうに、段階があるというふうに思います。そういう点で、これはもう、これでいいのかというふうに思うわけでありませう。

また、挙句の果てでございますけれども、日本風力エネルギー株式会社というのは、資本金がわずか10万円、会社を倒産させられれば、そこからの追及ができなくなります。これは最後の段階になってくるわけでございますけれども、こういう問題もあります。また、実際にこの風力発電施設ができることによって、町には財政的な観点、そんなことも含めて、どんなメリットがあるのか、そこを、私たちは見ていかなきゃなりませんけれども、町はどのように考えておられるのか。業者のほうは、下佐々で業者の説明会がございまして、それについて、アライナという新聞にも書いてますけれども、このように書いてますね。もう限界集落的な形に町になっている場合に、これは全く皆さんとは意見が正反対になるかもしれませんけれども、人が来てくれる、税収がふえる、働き手がないところに税収がふえるから、自分たちの道も山もちゃんと管理してくれる、そう言っている方もいらっしゃるんですと。九州のほうでそんなこと言ってるというんですけども、本当にそうであるのか、人は工事のときに人来てくれても、終われば去っていくとそんなことから考えて、一面的にはあっても、それによって大きなメリットというふうには考えられにくいというふうに思います。それについてどのように考えておられるのか。

また、これが区長会のほうで出してくれた資料なんですけれども、ここに風車が回っている写真が載ってますよね。私たちは由良町へも視察へ行ってきました。そこで、業者の方に説明を受けたんですが、この方が言ってるんですけども、雷がよう落ちるんですよって、こう言っておられるんですね。大体この雷というのが、風車のナセルという発電機や何やついたという、そこに落ちれば火事が起こる可能性がある。聞けば、このナセルの中に1,000リットルからのオイルが入っていると、冷却用の。そういうふうなところに火がついて起これば、山の上に並んでますから、それによって火事の心

配が起こるわけなんですよ。

ちなみに、消防のほうへ聞いたんですけども、消防車が駆けつけられたとしても、放水して、最高20メートルぐらいって言いますよね、水が飛ぶのは。そうすると、山の上に塔が建つんですけども、見ていましたら85メートルって書いてますよね。85メートルのところ、このナセルが載って、そこにプロペラがついていると、そこが燃え始めて、果たして20メートルの放水能力がなければ、とても85メートルからのところに水がとどかない。また、こんなところに行くならば、タンク車が要りますけれども、タンク車でまともに飛ばしたら3分ほどで終わってしまうんですね。こういうふうを考えて、山火事等の問題も出てまいります。そういうふうを考えて、果たしてこのメリットという問題がどんだけあるのか、デメリットのほうが大きいんじゃないか、そういうふうを考えますが、そのこのところについて、町はどのように捉えておられるのか、お聞きしたいと思います。

また、今年に入りまして、方法書の縦覧も済みました。そして、会社から住民の意見書が町に届くころになってまいりましたけれども、これをもとに町は知事に意見書を上げるというふうに聞いておりますけれども、その意見書にはどのように書かれるのか、また私たちがよりどころとしている県知事の林地開発ですね、この林地開発の許可をもらうのに業者が県のほうへ書類出しますけれども、それにも市町村等の開発に関する同意、これが必要なことになってまいります。そういう点から、この問題について、町にとっても大きな問題である、この町としての判断がされなければならない問題であるというふうを考えますが、その見解をお聞きしたいと思います。

次に、乗り合いタクシーについてお聞きいたします。

私たちの紀美野町は、自然豊かな町であって、大変結構なすばらしい町であります。しかし、山々に囲まれたところというのは、町の人の家ですね、軒数が少なく、点在というふうな状況になっています。そこに高齢化が進んでいるために、集落には以前はいたお世話をしてくれる方がいなくなっている、そういう集落もあります。そのようなところで生活をするためには、交通の手段が必要になります。さきにも、今までにも言っていましたけれども、自分たちではどうしようもないというのが現状になってきています。しかし、今までも申し上げたとおり、バスというのは、この広い地域を時間どおりに回るというふうなところでは限界があります。あちこちにバス停をつくって回っていけば、なかなか目的地に着くまで時間どおり行かない、そういうふうなことで、

バスという点につきましては、やはり限界がある。そういうことで、今、全国的にも広がっておりますけれども、タクシー制度ですね、非常に低料金で走ってくれるタクシーの制度というのがあちこちで広がってきておりますけれども、このことについて、町としては、どのように捉えておられるのか、以前にも質問してまいりましたので、見解をお聞きしたいと思います。

次に、支所での期日前投票についてお聞きいたします。

以前からお聞きしているところでございますけれども、だんだんと高齢化が進んでおります。また、投票に行かれる方々にとって、やはり投票日に行くというのは非常に気恥ずかしいというふうな方もございます。いろんな方がございます。そういうことをもって、投票所に行くか行かんかという問題ではございませんけれども、しかし、少しでも投票率を上げると、こういうことが大事であるということで、総務省もこの期日前投票を進めているわけで、その中でも市町村に1カ所以上というふうに、この投票所を設けなければならないと、こういうふうになっております。そういうことで、投票率を少しでも上げる、そういう観点からでも、支所での期日前投票の実施をするべきではないでしょうか。見解をお聞きしたいと思います。

次に、介護における総合法についてお聞きいたします。

総合法が実施されるようになりまして、以前のような介護度の低い方、その方の紙おむつの支給というのが線が引っ張られていると。今、お聞きしますと、御家族含めて、一家が非課税の家庭で、介護度4と5と、こういうふうに、現在この町ではされているように聞きます。取りかえの回数が少なくなってくるという面では、衛生面や快適な生活をしてもらうという点からでも問題があるというふうに思います。

私たちは、現憲法のもとで、最低の文化的な生活ができると、そういうふうに25条に記されているわけでございますけれども、そのもとにつくられた福祉サービスという点から考えて、25条のもとに生活保護の基準があるというふうに思いますが、生活保護の中では2万円ですか、月、そういうものが支給されているというふうに聞くんですけど、月、年で、何にしても、そういうふうな制度があります。しかし、非課税という、また紀美野町において一般的に私たちも耳にするんですけれども、もう本当に年金生活、それも早くからもらってるから非常に少ない金額、そういう方々が、それでも生活保護はもらわないというふうに言って、頑張っておられる方々がたくさんいます。そういうふうな方々と比較した場合、これでいいのかどうか。おまえは断ったんだから、それぐ

らい辛抱せえよというふうなことではないというふうに思うんですけれども。

ちなみに海南市をお聞きいたしましたら、ここでは常時失禁状態のある方、こういうふうな方をケアマネジャーや、その関係者から調査をして、そういう方には介護度1ないし2の方も含めて、失禁をされていると、そういうふうなことから、紀美野町において、この問題について、以前の状態に戻すべきではないかというふうに思いますが、御見解をお聞きしたいと思います。

以上、4点、よろしくお願いいたします。

(11番 美濃良和君 降壇)

○議長(美野勝男君) 住民課長、仲岡君。

(住民課長 仲岡みち子君 登壇)

○住民課長(仲岡みち子君) それでは、美濃議員の風力発電事業について、町として方法書の意見書にはどのように書こうと考えているのか、そして、施設ができることによって、町財政等、どんなメリットがあるのかとの御質問にお答えしたいと思います。

風力発電事業の環境アセスメントにつきましては、2月14日に事業所より環境影響評価法に基づく方法書が提出され、これを多くの住民に閲覧いただくために、町内10カ所の公共施設で、3月16日まで縦覧を行いました。

方法書では、電力を異なる連結点へ接続するという理由により、事業が(仮称)海南・紀美野風力発電事業と紀の川風力発電事業に分割されております。よって、方法書につきましては、要点と合わせて各2冊の縦覧となりました。

なお、期間中の各内訳を申しますと、(仮称)海南・紀美野風力発電事業の縦覧数は1,163名で、そのうち紀美野町は49名、投函された意見は1,170通、そのうち一字一句同一件数を1とカウントしますと695件でした。

そうした中で、事業所がこれを取りまとめて5月31日の和歌山県環境影響評価審査会に提出し、審査を受けております。それを得て、県知事と各関係市町に6月1日付で環境影響評価法第9条及び電気事業法第46条の6第1項の規定に基づいて、環境保全の見地に対する事業所の見解が送られてきております。

こうした中で、住民の皆様からお寄せいただきました貴重な御意見を参考にさせていただきながら、基本的に調査の方法については次の五つの観点から意見をまとめて提出したいと思っております。

まず一つに、調査の項目、方法書について適正か、調査項目の漏れや、他の適切な方法はないか。2点目、調査地点について漏れはないか。調査地点不足がないか。3点目、必要な環境への配慮がなされるような調査の計画となっているか。4点目、調査内容を検討するに当たり、引用している資料、文献等が適切か。所管する法令等、計画等に関する記述、規則の内容等が適切でないため、調査計画が不適切な内容となっていないかなどを含め、配慮書における町長の意見が方法書において事業所の見解として記載されている事柄を慎重に審査して、ただいま進めております。

次に、財政上のメリットがあるかとの質問でございますが、想定される税収の増額等について説明させていただきますと、土地につきましては、風力発電関連設備の建設に伴い、土地の造成等が行われる現況が山林等から現況地目が変更されることが考えられるため、例えば山林等から雑種地への地目変更がなされた場合には、税収の増額が考えられます。

2点目、償却資産につきましては、事業のために用いることができる構築物機械・器具・備品等をいい、課税標準額に税率を乗じて課税され、税収の増収が考えられると思っております。

以上、簡単ではございますが、方法書における町意見の概要説明と、風力発電による財政上のメリットについての答弁とさせていただきます。

(住民課長 仲岡みち子君 降壇)

○議長（美野勝男君） 総務課長、細峪君。

(総務課長 細峪康則君 登壇)

○総務課長（細峪康則君） それでは、私から美濃良和議員の2点目の、乗り合いタクシーについての御質問と、そして、続いて3点目の支所での期日前投票についての御質問にお答えをいたします。

まず、乗り合いタクシーについての御質問でございます。

昨年12月議会においても、交通の利便対策についての御質問をいただいておりますが、今回の答弁と重複するところもあろうかと思いますが、御容赦願いたいと思います。

当町のように、幹線道路から離れた山あい、谷あいに小さな集落が点在し、また集落までの道も狭いという地理的条件にあって、そのような集落のための交通手段の確保には、小型車両を使って乗り合いタクシー運行を走らすことも一つの運行方法であるということとは理解してございます。

昨年の12月議会において申し上げましたが、現時点では、引き続きコミュニティバスでの運行を続けてまいりたいと考えております。なお、引き続き、コミュニティバスの改善をも続けながら、近い将来、コミュニティバスの運行とともに、タクシー等の小型車両を活用した交通手段の確保についても、他の自治体の例なども参考にしつつ、当町にとって適したものを模索、研究していきたいと考えております。御理解賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。

続きまして、3点目の、支所での期日前投票についての御質問にお答えをします。

これも昨年12月の議会において、期日前投票所の支所への設置に関しての御質問をいただいております。今回の答弁と重複するところも多々あるかと思いますが、御容赦願いたいと思います。

近年、期日前投票を利用される有権者が増加している中で、議員の御提案につきましても、私どもも理解できるものでございます。しかしながら、期日前投票の運営に当たっては、選挙事務に多数の職員を要することから、各課職員の協力を得ながら、全庁を挙げて取り組み、平常業務にも支障のないよう実施しているところであります。

この現状のもとで、さらに1カ所追加設置し、2カ所で実施するとなりますと、単純に2倍の人員が必要となり、経費もふえてまいります。また、行政事務が増加する一方で、職員数が減少している中、1人の職員にかかる負担もふえており、臨時職員にも事務補助として協力いただいている状況にあって、期日前投票所を2カ所とすることは非常に困難な状況であります。

公職選挙法上は、あくまでも投票当日、投票所において投票することが原則とされております。また、期日前投票所をいかにふやそうとも、投票日当日の投票所ほどきめ細かく設置することは不可能でございます。当町としましては、投票当日に、投票所で投票をすることを踏まえながら、近くで投票できるということに重点を置いて、投票当日、住んでいる近くの投票所において投票しやすいよう、可能な限りきめ細かく、町内21カ所の投票所を継続し、設けているところでありますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

(総務課長 細谷康則君 降壇)

○議長(美野勝男君) 保健福祉課長、湯上君。

(保健福祉課長 湯上ひとみ君 登壇)

○保健福祉課長(湯上ひとみ君) 私からは、美濃議員の4番目の御質問、介護に

おける総合法についてお答えいたします。

議員御質問の要旨には、総合法が実施されるようになり、以前のように介護度の低い方はおむつの支給がなされなくなったとされていますが、紙おむつ等の支給につきましては、紀美野町家族介護用品支給事業として、介護保険の地域支援事業の中の任意事業の家族介護支援事業として実施しておりまして、いわゆる総合事業として行うものとは異なります。

この家族介護用品支給事業の対象となるのは、在宅で高齢者を介護する家族等で、紙おむつや尿とりパッド、介護用手袋など、介護に必要な消耗品を支給することで、家族等の経済的・精神的負担の軽減を図ることを目的としております。

議員御指摘のように、平成30年4月より、支給要件の見直しを実施いたしました経緯について説明させていただきます。

地域支援事業の内容が定められた地域支援事業実施要項が改正され、平成27年度からは家族介護用品支給事業は対象外とされました。これは介護給付の横出しサービスとして市町村特別給付などで対応が可能であるとの判断からです。ただ、多くの自治体が地域支援事業において実施している状況を鑑み、激変緩和として、平成26年度で実施している市町村においては、当分の間、当該事業を実施することが可能とされました。紀美野町においても、平成26年度時点で同事業を実施していたことから、継続して地域支援事業において実施しているところです。なお、平成30年度以降の激変緩和措置の取り扱いについては、適切な支給を行い、高齢者の自立支援等に資する取り組みが求められていることや、市町村特別給付への移行等について十分に検討することを踏まえ、1、高齢者の個別の状況を踏まえて適切に用品を支給する取り組みを行っていること、2、地域包括支援センターの運営や任意事業における各事業の課題を把握し、その対応方針を検討していること、3、各事業の課題を踏まえ、低所得者等への影響も考慮しつつ、任意事業としての介護用品の支給に係る事業の廃止、縮小に向けた具体的方策を検討していることが実施の要件とされました。

これを受け、紀美野町では支給の要件の見直しを実施いたしました。支給を受けられる方は在宅で生活されていること、町民税非課税世帯に属しており、かつ介護保険の要介護認定において要介護4、要介護5と認定されたこととさせていただきます。要介護度が重度になるほど介護の手間が多くなります。このような高齢者の方を在宅で介護されている家族等への負担軽減を重点的に行うためです。

これまではケアマネジャーの作成する書面において、介護用品の必要性を判断していたので、ケアマネジャーによっては判断にばらつきがあったことは否めません。

なお、今回の見直しでは、常時失禁状態であることの確認を原則、介護認定調査票で行うこととし、公平を確保しております。介護度は低くても、認知症や泌尿器などの疾患等により常時失禁状態にある方もいらっしゃいます。そのため、申請により個々の状態を訪問等で確認し、要介護4、5以外の方でも支給をできる場合があります。

以上申し上げたように、今回、支給要件の見直しを実施させていただきました。これまで受給されていた方への影響も大きいことから、ケアマネジャーを通じて利用者の方へ早い段階から説明を行うとともに、平成29年12月号広報きみのでの掲載など、早い段階から周知を図り、理解を求めてきたところです。今後も引き続き、個々の状態を把握しながら、適正な支給に努める所存ですので、御理解賜りますようお願いいたします。

(保健福祉課長 湯上ひとみ君 降壇)

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 紀美野として、風力発電の意見書ですね、県に対する、それについてありましたけれども、市町村として、きょうは、町長おられませんけれども、責任者の点からの、副町長の答弁を聞きたいと思いますが、それについていかがでしょうか。

○議長（美野勝男君） 休憩します。

休 憩

(午前 9時30分)

再 開

○議長（美野勝男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前 9時30分)

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） それでは、美濃議員の一つ目の質問、風力発電について、先ほど住民課長から御答弁申し上げましたけれども、町長としてのということで、きょうは町長は欠席させていただいておりますが、私から基本的な考え方を申し上げさせていただきます。

具体的には、先ほど課長が、今回の方法書に対して大勢の方々から意見書が出されました。それも町も承知しておりまして、今回の方法書に対して、市町村としての意見を今後提案、提出していくということで、五つの点から説明申し上げました。

議員が言われましたように、当初、配慮書に対して、町の意見書、総括的な意見として、特に健康被害についてということと、大きくは、関係住民の全ての関係住民の理解を得るように努めることということが、総括的な意見として、町から出しておりました。個別的な意見としましては、6項目ございまして、健康被害、そしてまた、環境に重視する、そして、資源を残していく、文化財等々の意見を出しておりまして、配慮書に対する事業所の見解ということで、先ほど議員もおっしゃられましたように、健康被害については、特に、もし仮にそういうことが起こった場合にというような、そういった見解であって、非常にこういう見解では、町としても受け入れられないというようなことを実感しているところでございます。

町といたしましては、基本的な考えは、全く変わっておらないということと、方法書に対して千数百件の意見をいただいている中で、非常に意見をいただいた方々は、特に紀美野町の関係の人におきましては、健康被害については非常に心配されているということと、紀美野のすばらしいこの自然を残していかなければならないということで、そういった自然環境を残していくということに対して意見をいただいている、さらに災害等々についての意見もいただいております、そういった方々の意見を十分承知しているところでございます。

そうしたことから考えまして、先ほど課長が答弁申し上げました5項目については、こういった形で、方法書に対する町の意見としては、そういった観点から意見を述べていくわけですが、根本的には、先ほどから申し上げておりますように、健康被害、自然の破壊につながり、また災害にならない、そういった議員もおっしゃっていただきましたように、もし火災が発生したときにはどうするんだというような、そういったことが心配されるところがたくさんございますので、十分これからも業者から出てくる次の準備書については、具体的な回答、見解を述べてもらわなければ困るというような現在の認識でございます。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） この風力発電でございますけれども、今、いろいろと御

答弁いただきました。具体的にそれを、事前に出した通告にも入ってましたけども、これについて、財政的な問題、財政的等というふうに書いておったんですけども、それです、メリットというのは、今、課長言われたように、要するに、税収がふえると。幾つかの税収がふえるということでは言われましたけども、これは当然のことですけども、財政というのは収入がふえれば、交付税が減らされると。25%だけ基礎的な分は残されるというふうにも書いてますけども、そういう点で、単純に税収がふえたから、この町が豊かになるということにはならないというふうに思うんですね。それに対して、マイナス面の健康被害や、あるいは土砂災害、これは相手が認めなければ町のほうにいろんな負担がついてくると。そんなんで、差し引きどうなるんかというふうな問題があるかというふうに思います。

さきに言いましたように、消防等についても、幾ら町の消防署の職員が努力してくれても、このように、この町では考えられないような施設ですから、それに対する対応はやはりできてないと。ですから、この風車ができるから、今度は消防署にはしご車を買おうとかかならんわけでしょう。そんな負担を我々するわけにはならないというふうに思いますけども、ましてや、水源ですね、そういうものが山の上にはないですから、タンク車を上げたとしても、時間的に本当に少ない。その間に、燃えているのを見なければならぬというふうな状況になったり、あるいは油が飛散することによって、下の山の方々が山火事の被害を受けると、こういうふうなことにもつながってくると思います。そういうふうな点から考えて、今、副町長も答弁いただいたんですけども、いろんな問題があるけれども、区長会も反対している、あるいは議会も反対している、そういうところで、町としてはっきりと反対というふうな立場をとるべきところに来ているんじゃないかというふうに思いますが、その辺について、もう一度、見解いただきたいと思っています。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） ただいま美濃議員から風力発電について御意見をいただきました。議員おっしゃられることは、町といたしましても、重々承知しているところでございます。財政面のことも言われましたが、仮にそうしたものができたとすれば、固定資産税の中の償却資産が新しく新たに税収として入るということを申し述べただけでございます。決して、財政面においてメリットがあるから云々とかということではございません。そうした収入がふえるということは、これは事実でありますので、申し上げ

げたところでございます。

議員おっしゃられるように、健康被害の点であるとか、土砂災害の恐れであるとか、仮に火災が起こったときに対応できるかとかいったこととか、もっともっと心配することはたくさんあるということも十分に承知しているところございまして、ただ業者が、ただ、そういった出てくれば、それなりの対応も必要であるということで、最初の配慮書、そして2回目は方法書、その方法書に対していろんな意見もいただいているということで、そういったことを踏まえて、町としての意見書を知事に上げていくというようなスタンスでございます。

きょうのところは、寺本町長欠席させていただいておりますので、町長としての見解、議員がおっしゃられるように、町長として、反対すべきじゃないかというこの質問に対しては、きょうは答弁は控えさせていただきたい、そういうふうに思っておりますので、その点、御理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 先ほども質問いたしましたけれども、この日本風力エネルギー、この株式会社は子会社ですけれども、これは資本金わずか10万円って書いてますよね。最近、会社がエクイスエナジーから、デナでしたかね、デナエナジーかテラか、というふうな名前の会社の名前も変わって、3,000億円の投資を受けた会社から5,500億円で実質売られたというふうな形になっている、その会社の名前もはっきり変わったというふうに聞くんですけれども、その会社が、資本金わずか10万円ですから、これ最後に20年というふうに書いてますけれども、耐用年数が、20年たって、撤去をせなあかんということになってきたときに、果たしてどうするのかという問題も頭の中に入れておかなきゃならんというふうに思うんですね。1基を撤去するのに、やっぱり1,000万とか大きな金額になるように聞いておるんですけれども、そうやってまいりますと、もう早い話が10万円ですから、会社を潰してしまえば、会社ですからね、個人ではないですから、責任の追及がなくなってしまうと、こういうふうな点も考えとかなければならんというふうに思いますが、その点についてお聞かせいただきたいと思います。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） ただいま議員からの御質問は、今回の建設される事業所

は、資本金10万円ですかね、という確かに非常に零細な小規模なそういった会社であるということの中で、先のことについての御質問であったかと思えます。

資本金10万円ということであるんですが、事業所からのカリキュラムを見てみますと、SPC方式でそういった会社をつくって、この事業に取り組んでいくんだというような形で、事業所の見解も書かれておりますが、さらにこれ、事業所の見解になるんですが、撤去費用とか、もちろん建設費用、撤去費用等々につきましては、トータル的に要る費用については、銀行等の借り入れで行いますよというふうな事業所の見解が文面上、出されているのが現実でありまして、ただ、それによって、その詳細については今のところわかりませんが、書き物では、建設費用であるとか、撤去費用であるとか、そういったことの全てを勘案して、銀行等から借り入れで資金を調達するんだというような事業所の見解であると、現在のところ方法書について、そういう見解かということを確認している状況でございます。以上です。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 時間がないので簡単によろしくをお願いします。

今言われたように、要するに資本金わずか10万円と、こういうふうな会社が倒産した場合に、今言うように、たくさんの風車を撤去を完全にせんでもいけると、こういうことについてはどうですか。その責任を最後まで持たせる方法があるのかどうか、そのところだけ教えてください。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） ただいまの、もし倒産した場合の後の撤去等々についての対応について、議員から御質問いただきましたけれども、これにつきましても、きょう、町長が欠席されている中での私、副町長としての見解とすれば、今の段階でそれについては、こちらから答えられるべき質問ではないという認識です。それは、その場合には、町が云々ということではなくて、それは事業所に対して、強く答えを求めていくものであるというふうに考えておりますので了解いただきます。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 時間がないので、済みません。要するに、イエス、ノーで教えてください。こういうふうな会社が倒産した場合に、負債等については、そこが払わず方法があるんじゃないか、これについて、イエス、ノーで教えてください。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 議員からイエスかノーかで答えてくださいというような御質問であったかと思いますが、このことにつきましては、イエス、ノーで答えられるような質問ではないというふうに認識してございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） すみません、時間がないので次に進みますが、乗り合いタクシーについて、今いろいろと検討していただいているというようなこともございますけれども、近い将来ですね、タクシーも入れた検討をすると、まちに適したものを考えていただいているということでございますけれども、それはどこの部分でやっておられるのか。具体的にそういうふうな検討をするところでされているのかどうかについてお聞きしたいと思います。

○議長（美野勝男君） 総務課長、細峪君。

○総務課長（細峪康則君） 美濃議員の御質問にお答えをします。

まず、乗り合いタクシー、タクシーの利用に関して、交通関係は総務課が担当しておりますので、ただいまのところは総務課内でいろいろ情報を集めたりしているところでありまして、タクシーの活用に関しても、どんなものがあるか、例えば定時定路線型といますか、今のコミュニティバスをタクシーを利用したような形のもので、定時定路線型というのは。それからあとデマンド型、これには幾つかあるようでございます。乗降所を固定した固定型とか、それから自宅と乗降所を往復するとか、それからまたドア・ツー・ドア型とか、あるいはまたタクシーを利用するには、高齢者の方に助成券を配って、そして利用していただくと、そういうことで、タクシーの利用は幾つか考えというか、情報を収集しておるところでありまして、これを総務課内でいろいろ検討して、そして事務事業評価というのを町もやっておりますので、そこに提案して、そして、どういうものが一番いいのかとか、それをどのように実施していったらいいのかとか、そういうことを提案してまいりたいと思っておりますので、いましばらくお時間をいただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） そういうことで、検討していただいていると。いましばらくということでございますけれども、今どんどんと高齢化は進んでいるし、それから

団塊の世代がいよいよそういうふうな状況になってきていると、そこへもってきて、今問題になっている免許証の返納ですね、そういうことも進めているわけでございますけれども、そういう中で、時間的な問題があると思います。どの程度の時間を考えてやっておられるのかお聞きしたいと思います。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 議員から、コミバスの件で御質問いただきました。先ほども総務課長が申しましたように、町としましては、今のコミバスで満足しているわけではございません。ここについては、旧の野上では平成11年、旧の美里では平成12年ということで、間もなく20年を迎えようとしている中で、社会情勢も大きく変わって、今の状態のこととして十分満足して皆さん、運行できるかといったら、そうではない時代に入っているというような認識でしております。

昨年度、上ケ井・箕六線においては、コミバスのデマンド型という形を今とらせていただいて、試験的にデマンド型をとって今やっているところでございます。コミバスの今の形態で申しますと、やはり幹線道路については、今のコミバスを継続していかなければ、これはそれにかわるべき民間の路線バスのない状況の中で、幹線についてはコミバスは継続していかなければならない。しかしながら、幹線道路から入ったところの地域の方々をどういう形で乗っていただくかということが大きな課題でありますので、幹線道路を走っているコミバスの補完的な形で、今、議員もおっしゃられる乗り合いタクシー的なことも一つかと思いますが、当町の置かれているいろんな要件の中で、民間にそういったタクシー会社があるのか、そういったことも含めながら、いろいろと協議をして、できるだけ早い時期に、補完的な形での運行を目指していきたいと思っておりますので、御理解いただきたいなと思います。以上です。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 今、幹線道路は現在の乗り合いバスと、幹線から入っていく枝道については、そういうふうに乗り合いタクシーを考えられるということがございますけれども、その乗り合いタクシーについては、どのような程度のこと、例えば、先ほど課長も言われたドア・ツー・ドアという、今、全国的に広がってきているのは、このドア・ツー・ドア型ですよね。それについてはどうであるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 議員、乗り合いタクシーとおっしゃっていただいているんですが、乗り合いタクシーで対応するというのではなくて、それも含めて、うちの町に適した方法というのは考えていかなければならないと思います。それは幹線から枝道で入っていつている地区がかなり多うございますので、どういう形ですればうちの町のそういった地域に適しているのかということをも十分検討した上でなければ、方法を決定するのは難しいかなと思っております。他の市町村では乗り合いタクシー、そしてまたそういったことも十分承知しております。紀美野町にとって乗り合いタクシーが可能かどうかも含めて、十分検討して、うちに適したような形を採用していく、そういうことで今後進めていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。以上です。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） これについては、はっきりしたところがまだ答弁していただいているんですが、要するにドア・ツー・ドア型ということについては、まだ検討に入っていないと。乗り合いタクシーというのは、非常にこの辺がばくっとしたところの各市町村で全国的にもあるみたいで、乗り合いといっても、停留所があつてというふうな形のところもあるようであります。その辺のところを、うちのように、停留所をつくっても、停留所まで来ることができないようなお年寄りもあちこちに出てきておられますけれども、その辺から考えて、やはりドア・ツー・ドア型ということになってくると思いますが、その辺についてはどう押さえられているのか、再度聞きたいと思っております。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 他の市町村で運行している乗り合いタクシーについても、いろいろと調べてみました。タクシーといえども、きちんとしたルートも決められているみたいですし、停留所の場所、そしてまた時間なんかも決められて、乗り合い型タクシーを運行しているケースもあるというふうに承知しています。

議員言われるように、ドア・ツー・ドアということが可能かどうかというのは、今、この場では答弁申し上げられませんが、できるだけそういった枝道へ入っていつて、奥と言えは失礼なんです、幹線から離れてられる方々が、利用がスムーズにいけるような形を考えていきたいというふうに思っております。

そしてまた、根底には、やはり時代も大きく変わつてきて、そういう必要性は十分町としては承知しておりますので、まずはそのことを議員に御理解いただきたいと思いま

す。その上で、できるだけ早い段階で、それが実施をというんですか、できるように進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 時間が本当に1時間ということで、次に進みますが、期日前投票でございますけれども、海南市で以前は本庁と、近くの市民会館ですか、たしか近くのと、それからもう1カ所、合併しましてから、旧の下津町の、こっちでいうたら支所ですね、あそこ2カ所でやってたんですけども、昨年の衆議院選挙から投票所を1カ所ふやして、海南東部のほうにも1カ所設けたと、ですから現在3カ所でやられるというふうに、しているように聞きます。これについては、先ほども言いましたように、総務省が投票率の向上を目指して、こういう制度を入れていくと。金の問題についてもおっしゃられましたけれども、臨時職員と人の問題、それから金の問題と、こういうことで聞きたいんですが、国政選挙や県の選挙、こうなるとまいますと、これお金出ますよね。町の町長及び町会議員の選挙については、町単独ですけども、その辺から考えて、確かにうちの町は合併後、人数もどんどん減らしてきていると、そういうふうなことの中で、いろんな問題もございまして、町の参政権、町民の参政権、それを考えて総務省も期日前投票の投票率を上げるという、要するに投票に参加してもらおう人を上げると、そういうふうな形で来ているわけですけども、うちはその点から考えて、金がないからやめるということにならんというふうに思いますが、どうでしょうか。

○議長（美野勝男君） 総務課長、細峪君。

○総務課長（細峪康則君） 美濃議員の質問にお答えをします。

確かに国政、県政、そういう選挙は国や県から補助金は出ます。町議、町長選挙というのは、これ町単独で見やないかん部分ですね。それで、期間も期日前は短い期間でありますんで、さほど金額的には上がらないということでございます。

ただ、一番問題と申しますか、私たちが苦慮しているのは、朝の8時半から、そして夜の8時までですかね、その期間、期日前投票所をあけて、そして皆さんのお越しを待っているという状況の中で、非常に長時間でありまして、全庁的に取り組んでいる、ほかの課にも手伝ってもらっているのが8時半から5時まではほかの課の応援も得て、選挙事務を行っておるんですけど、土曜、日曜と、それからあと夜の部分は総務課が担当し

ているところでございます。そういう中で、なかなか期日前投票所を2カ所にするというのは、非常に人的なものが大変でありますので、その辺を御理解いただきたいと思えます。

それで、当町としては、あくまでも選挙投票日当日に選挙に行っていただきたいということを、ずっと今までも申し上げてますし、町内きめ細やかに21カ所の投票所を設けておるところであるんです。県下的に見ますと、投票所1カ所当たりの平均ですかね、選挙人の名簿の登録者数を見ますと、30市町村で少ないほうから8番目に紀美野町は位置しています。ですから、1投票所に登録されている選挙人の数が非常に少ない、数多くあるというふうに認識をしていただければいいかと思えます。まして、旧美里地域におきましては、大体、前の選挙では2,600人ぐらいの有権者の方がいらっしゃるんですけど、そのうちで13カ所、美里地域に置いてあるので、平均1投票所当たり200人のところであるということでございます。

それで、いろいろ申し上げましたけども、今後も投票日当日に、近くの投票所で投票していただくということを原則にして、投票所を減らさないようにしていきたいと思っておりますので、御理解をいただきたいと思えます。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 投票所を減らさないという、少し減りましたけどね、という努力については、それは評価するんですけども、また、期日前投票と、それから投票所を減らさないということについては、これイコール一緒の見れないというふうに思うんですよ。期日前投票所があるということは、告示日の次の日から投票に行けることですよね。それが少しでも近くにあったほうがというふうな問題。それから、先ほども言いましたけれども、若干の方の中には、やはり投票日に行くことについてためらっている方もおられるようなんですよね。そういうふうな方もおられて、少しでも投票率を上げていくという、そういう観点から見て、やはり今、人の問題があるということでございますけれども、その点について、町としてやはり考えるべきではないかと。今言いましたように、投票所の数と、それから、また期日前投票とは一緒にいかないというふうに思いますので、その点についてはもう一度お聞かせいただきたいと思えます。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 議員がおっしゃられるように、期日前投票所が現在は本庁1カ所、支所でもできたらということは、その趣旨というんですか、重々承知してい

るところでございますが、以前から申し上げてますように、1カ所の期日前投票所を開設するのも、相当な人が要る。そしてまた参議院であるとか県知事選挙であれば、17日間という大変長い期間の開設ということになります。1カ所開設するのに非常に人がたくさん要るということの中で、もちろん間違いはあってはいけないということがございますので、1カ所できちんとした形で今やっているということ、さらにその上に2カ所というのは、町にとって紀美野町にとっては大変難しいことかなというふうに認識しております。

以上、御理解いただきたいと思えます。

○議長（美野勝男君） 11番、美濃良和君。

○11番（美濃良和君） 時間ございませんので、最後の問題に移ります。今の問題については、いろいろと検討もしていただきたいんですが、とりあえず次の問題に移ります。最後の問題について、先ほど、この問題については、26年から改定ですか、その後、これで、次、現状そういうふうに行っているけども、廃止もあり得るというふうな答弁、廃止のというふうなこともおっしゃられましたけれども、言われましたけれども、この点についてどうであるのか、やはり何遍も言うように、弱者にとっては大変な問題であります。実際、紙おむつがなくて、べたべたの状態であるような方もおられると、その辺のことから考えて、町としてもそのところにやっていけないか、前の状態でやっていけないのかどうか、その辺についてお聞きしたいと思います。

○議長（美野勝男君） 保健福祉課長、湯上君。

○保健福祉課長（湯上ひとみ君） 美濃議員の御質問にお答えいたします。

国のほうでは、先ほど申し上げましたとおり、地域支援事業の中の任意事業として行っている、ただずっと以前から行っているんですけども、これにつきましては、もう廃止していけという方向でずっと進んでおります。この分につきましては、国庫負担が現在では38.5%、県費が19.25%、市町村が19.25%で、残りは第1号被保険者の方23%の費用負担で行っているものになります。先ほど答弁でも申し上げたとおり、国のほうでは市町村の介護給付の横出しサービスでもできるのではないかとことなのですけども、この市町村の横出しサービスにつきましては、全て第1号被保険者、高齢者の方の保険料を使って行えというものになっています。全て65歳以上の方の保険料を使っておむつをするのか、または違う形で今後検討するのかというのも、検討しなくてはいけない時期になっておりますが、必要に応じて、やはりおむつというのは支

給することで、在宅生活の負担を減らすことができるかなと考えておりますので、今すぐやめるとか、そういうことは考えておりません。

ただ、先ほども申し上げましたとおり、要介護4、5以外の方で、認知症とか尿意がないことで常時失禁状態の方ということで、本町では軽度の認定の方でも、必要に応じて配付はさせていただいております。ただ、ほかに失禁の中でも腹圧性の尿失禁とか、ちょっとおなかへ力入ると尿漏れがあるとか、トイレまで間に合わない方もいらっしゃるかと思えます。その方の場合は、いろんな介護のケアマネジャーや事業所などに骨盤底筋のトレーニングとか、尿を我慢するような介護予防ですかね、そういうことなども周知はさせていただいております、なるべくそういう状態にならないようにというのは、並行して行っております。

いずれにいたしましても、おむつにつきましては、今後、検討の時期になってるんですけども、適正な形で残してはいきたいとは、現在のところ考えております。

以上です。

○議長（美野勝男君） これで美濃良和君の一般質問を終わります。

続いて、4番、町田富枝子君。

（4番 町田富枝子君 登壇）

○4番（町田富枝子君） おはようございます。

昨日の大阪北部の地震でお亡くなりになられた皆様の御冥福をお祈りするとともに、一日も早い復興を祈念いたします。

私のほうからは3点についてお伺いしたいと思います。

まず1点目ですが、公営住宅への入居に際しての連帯保証人の取り扱いについてお伺いいたします。

紀美野町営住宅条例第11条には、町営住宅の入居決定者は、決定のあった日から10日以内に次に掲げる手続をしなければならないとあり、（1）に入居決定者と同程度以上の収入を有するもので、規則で定める資格を有する連帯保証人2人以上の連署した賃貸契約書を提出することと定められています。しかし、近年、身よりのない単身高齢者等が増加していることなどを踏まえ、本年3月30日付で、国土交通省住宅局住宅総合整備課長から、各都道府県知事・政令市住宅主務部長宛てに、公営住宅への入居に際しての取り扱いについてとの通達が送られました。

少し長い文章になりますが、紹介をさせていただきたいと思っております。

記、第1、民法改正等に伴う入居保証の取り扱いについて。

今般の民法改正により個人根保証契約において、極度額の設定が必要となったことや、近年、身寄りのない単身高齢者等が増加していることなどを踏まえると、今後、公営住宅への入居に際し、保証人を確保することがより一層困難となることが懸念されます。

住宅に困窮する低額所得者への住宅提供という公営住宅の目的を踏まえると、保証人を確保できないために入居できないといった事態が生じないようにしていくことが必要であり、保証人の確保を公営住宅への入居に際しての前提とすることから転換すべきであると考えます。このため、標準条例案を改正し、保証人に関する規定を削除することとしましたので、各事業所主体においては、住宅困窮者の公営住宅への入居に支障が生じることのないよう、地域の実情等を総合的に勘案して、適切な対処をお願いします。この後にも続くんですが、ここまで紹介します。

紀美野町においても、今後このような状況になっていくことが考えられることから、連帯保証人の項目をなくし、住宅に困窮する方々が入居しやすいようにする考えがあるかお伺いいたします。

2点目に、広報紙について2点お伺いいたします。

①といたしまして、マイ広報紙への掲載についてでございます。

毎月発刊される広報きみのには、町の話題やお知らせ、情報が載っていますが、家族全員、特に若い人たちはこの広報紙から情報を得るということは、なかなか難しいと思われれます。マイ広報紙は自治体等が発行する広報紙を、記事ごとにデータ化し、インターネットで無料配信するサービスで、自治体における作業や費用の負担がなく、広報紙のニュースを効果的により多くの人に届けることができます。まさに若い世代にぴったりの活用ができると考えますが、町は広報きみのをマイ広報紙に掲載する考えはないかお伺いいたします。

②ですが、マチイロアプリ等の若い世代への周知についてでございます。

今月の広報紙にスマートフォンやタブレット等の無料アプリ、マチイロを使って広報きみのを読むことができます。ぜひ御利用くださいとありましたが、このお知らせでどれだけの若い世代に広がるのかが疑問です。若い世代への周知等、どのようにお考えでしょうか、お伺いいたします。

3点目ですが、教育施設におけるミストシャワーの設置についてお伺いいたします。

これは随分前のことになりますが、教育施設における猛暑対策で、ミストシャワーの

設置について質問させていただいたことがあります。当時の教育次長からは、毛原小・中学校、野上中学校では、既に簡易的なミストシャワーが設置されており、運動会の練習後等に使用されているということでした。今や多くの学校施設にミストシャワーが設置され、運動会の練習やクラブ活動などの猛暑対策に効果を発揮し、子供たちに喜ばれています。

先日、下神野小学校に問い合わせたところ、まだ設置されていないということでしたので、再度、町の考えをお伺いいたします。

以上、よろしく申し上げます。

(4番 町田富枝子君 降壇)

○議長(美野勝男君) 企画管財課長、坂君。

(企画管財課長 坂 詳吾君 登壇)

○企画管財課長(坂 詳吾君) 私のほうからは、町田議員の1番目の公営住宅への入居に際しての連帯保証人の取り扱いについての御質問にお答えをいたします。

公営住宅の入居に際しての連帯保証人の取り扱いにつきましては、平成30年3月30日付で国土交通省住宅局住宅総合整備課長より通知のありました、公営住宅への入居に際しての取り扱いについてにおいて、公営住宅管理標準条例案を改正し、保証人に関する規定を削除したことに伴い、今後の公営住宅への入居に際しての留意点について、技術的な助言をされたところでございます。

民法改正等に伴う入居保証の取り扱いにつきましては、個人根保証契約において極度額の設定が必要となったことや、近年身寄りのない単身高齢者が増加していることなどを踏まえると、今後、公営住宅への入居に際し、保証人を確保することがより一層困難になることが懸念され、住宅に困窮する低額所得者への住宅提供という公営住宅の目的を踏まえたときに、保証人を確保できないために入居できないといった事態が生じないようにしていくことが必要であるため、公営住宅管理標準条例案から保証人に関する規定が削除されたものでございます。

さらに、この通知の中で、各事業者においては、住宅困窮者の公営住宅への入居に支障が生じることのないよう、地域の実情等を総合的に勘案して適切な対応をすることとされており、その際、保証人が家賃債務の保証のみならず、実質的に緊急時の連絡先としての役割も果たしていることに鑑み、入居時において、緊急時に連絡がとれるよう勤務先、親戚や知人の住所等緊急時の連絡先を提出させることが望ましいとされていると

ともに、緊急時の連絡先が確保できない場合にも入居の支障とならないよう、地域の実情等を総合的に勘案して、適切な対応をすることとされております。

また、平成29年10月には、家賃債務保証業者登録規程に基づく家賃債務保証業者登録制度が開始されたところであり、公営住宅への入居に際して必要に応じて機関保証を活用するなどにより、保証人の確保が難しい方の入居を円滑化していくことも必要であるとされております。

さて、当町における現状の公営住宅への入居に際しての連帯保証人の取り扱いにつきましては、紀美野町営住宅条例第11条第1項第1号の規定により、連帯保証人2人以上の連署した賃貸借契約書を提出することとされているとともに、同条第3項の規定により、特別の事情があると認める者に対しては、連帯保証人の連署を必要としないこととすることができることとされており、保証人の免除の配慮を行うことができることとなっております。

議員御指摘のとおり、当町におきましても、身寄りのない単身高齢者等が増加しており、保証人を確保することがより一層困難になることが懸念されます。そのため、住宅困窮者の公営住宅への入居に支障が生じることがないように、保証人の免除の配慮や家賃債務保証業者による機関保証の活用も視野に入れ、適切な対応を行うことが必要であるとと考えてございます。

しかしながら、現状の保証人の役割として、家賃債務の保証先の確保、また保証人が家賃債務の保証のみならず実質的に緊急時の連絡先としての役割も果たしていることを鑑みれば、当町の町営住宅条例から保証人に関する規定を削除することに関しては、十分に検討を行う必要があります。

今後、当町の町営住宅条例から連帯保証人に関する規定をなくしていくことにつきましては、和歌山県や周辺市町の動向を注視しながら、調査研究を進めてまいりたいと考えてございますので、御理解賜りますようお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、答弁とさせていただきます。

(企画管財課長 坂 詳吾君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 総務課長、細峪君。

(総務課長 細峪康則君 登壇)

○総務課長 (細峪康則君) それでは、町田議員の2番目の質問であります広報紙についてお答えをいたします。

町の広報の役割は、住民のまちづくりへの関心を高めるとともに、さまざまな行政の情報を提供し信頼関係を築く上でも欠かせないものであります。このようなことから、町の広報紙をさらに多くの方に読んでいただく、見ていただくことが大事であり、効果的な発信が求められていると認識してございます。

①のマイ広報紙への掲載についてでございますが、マイ広報紙は、自治体が発行する広報紙をインターネット上で無料配信するサービスであります。もとの広報紙のデータから掲載記事一つ一つを抜き出し、それぞれデータ化して掲載し、さらに記事ごとに暮らし、子育て、健康などジャンル分けもされるため、必要な情報を検索しやすくなっております。

県内でも既にかつらぎ町、上富田町、那智勝浦町が利用しているようであります。パソコンやスマートフォンで読むことができるため、手軽に必要な情報を入手しやすく、若い世代が利用しやすいサービスであり、自治体における作業や費用の負担もないことから、当町としましてもマイ広報紙への掲載を前向きに検討いたしたいと思っております。

②のマチイロアプリ等の若い世代への周知についてでございますが、当町では、スマートフォンやタブレット等で町広報紙を読むことができる無料アプリ、マチイロを導入してございます。ページめくり、拡大、縮小なども簡単に行えるため、スマートフォンでも気軽に広報紙を読むことができ、登録さえしておけば、最新号が発行されるとアプリにお知らせが届くため、紙離れが進む若い世代向けに有効な広報手段であります。

広報きみの6月号にも掲載のとおり、年に1回程度の間隔でアプリについて広報紙に掲載し、周知を図っているところであります。しかしながら、御指摘のとおり周知については不十分なところもあり、目立つような箇所への掲載や掲載間隔の見直し等、今後の紙面への掲載による周知方法の見直しを考えてございます。

またホームページを活用して、マチイロアプリで広報きみのを配信している旨を掲載するなど、周知させていきたいと考えております。

以上、御理解のほどよろしくお願いをいたします。

(総務課長 細谷康則君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 教育次長、曲里君。

(教育次長 曲里充司君 登壇)

○教育次長 (曲里充司君) 私からは、町田議員の三つ目の教育施設におけるシャ

ワーの設置についての質問にお答えさせていただきます。

平成25年9月の一般質問において、猛暑対策について御質問いただき、各学校で工夫しながら取り組んでおりますので、ミストシャワーを含め、今後検討させていただきたい旨答弁させていただきました。

その後の状況ですが、美里中学校において7月から9月にかけて簡易のミストシャワーを設置している状況です。他の学校につきましては、現在のところ設置の要望がございません。運動場での練習やクラブ活動時は担当の先生が付き添い、児童・生徒にはこまめに水分補給を行わせ、日陰で休憩をとらす対策を講じております。

今後も学校からの要望を把握し、猛暑対策としてミストシャワーを含め検討してまいりますので、御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

(教育次長 曲里充司君 降壇)

- 議長（美野勝男君） 4番、町田富枝子君。
- 4番（町田富枝子君） 先ほど企画管財課長がお示ししてくださったように、紀美野町町営住宅条例第11条3項に、特別の事情があると認める者に対しては、第1項第1号の規定による賃貸契約連帯保証人の連署を必要としないこととすることができると思いますが、この特別の事情とはどういうことを指すのでしょうか、お伺いします。
- 議長（美野勝男君） 企画管財課長、坂君。
- 企画管財課長（坂 詳吾君） ただいまの町田議員の御質問ですが、ここで言う特別の事情と言いますのは、災害による避難者等を想定しておりまして、単に身寄りのない方を想定しているわけでは、現時点はございません。
- 以上でございます。
- 議長（美野勝男君） 4番、町田富枝子君。
- 4番（町田富枝子君） それでは、過去に連帯保証人なしで入居した例というのはあるのでしょうか。また、保証人が立てられなくて、入居を断念された方がいるのでしょうか、お伺いいたします。
- 議長（美野勝男君） 企画管財課長、坂君。
- 企画管財課長（坂 詳吾君） 過去に保証人を確保できないという理由で、公営住宅の入居を断念された例というのはございません。
- それから、保証人を確保できないという理由で、入居を断念された方はございません。
- 議長（美野勝男君） 4番、町田富枝子君。

○4番（町田富枝子君） 多分、ないということじゃなくて、保証人が立てられなくて、利用者が、これは立てられないということで断念された方が何人か、たくさんいらっしゃるのではないかと、そのように思います。今回のこの通達の中で、今回のこの国の通達は本当に国民に住民に寄り添った素晴らしいものであると考えます。ここにも記載されているように、滞納額が累積して、およそ支払いが困難になる前に、入居者の個々の事情を十分に把握し云々とあるわけですが、寄り添って、解決策を探っていくやり方が本当にベターであると思います。連帯保証人から支払いを求めるやり方というのは、もう行き詰まっているのではないかと考えます。今まで私たちが質問した際に、執行部はよく国の動向に注視しながら云々といわれた答弁をよくされるわけですが、今回は国が国民に寄り添った通達を出してきていることから、紀美野町でもいち早く決断して、住民に優しい行政に努めていくべきであると考えますが、いかがでしょうか。再度お伺いいたします。

○議長（美野勝男君） 企画管財課長、坂君。

○企画管財課長（坂 詳吾君） 今回の改正といいますか、保証人を削除したという件につきましては、やはりそういう実情があるというのはこちらでも把握しているところでございます。まず国の動向に注視しながらということもあるんですが、当町としては、現時点ではちょっと、ほかの県とか周辺市町村の足並みもちょっと見ながらいきたいというところもありまして、今すぐに保証人を削除するということは、ちょっと考えてはございませんけども、ただ今後、検討はしていきたいとは思っておりますので、御理解賜りたいと思います。

○議長（美野勝男君） 4番、町田富枝子君。

○4番（町田富枝子君） その件については、またよく検討をしていただきたい、そして住民に寄り添った結果にしていただきたいと思います。

続きまして、この広報紙についてでございますが、マイ広報紙への掲載については、前向きに検討ということでしたので、よろしくお伺いいたします。

そして、マチイロアプリ等の若い世代への周知についてですが、この広報紙、載せていただくのはありがたいんですが、なかなか若い人たちが広報紙を見る、うちの例をとってあれなんですけど、私が見ても、若い人たちがそれを手にとるかといったら、なかなかそこまで行かないということがありまして、これからは本当に若い人たちにも行政というんか、紀美野町のことについて、いろいろ考えていただきたいなど、そんな観点

から、例えば成人式であるとか、また、このほかのイベントであるとか、そういうときにも、お知らせというか、この紹介をしていただければいいんじゃないかと、そのように思いますが、それはどうでしょうか。

○議長（美野勝男君） 総務課長、細峪君。

○総務課長（細峪康則君） 大変ありがたい御提言をいただきありがとうございます。確かに若い世代は、広報紙はなかなか見ていただけない状況にもあろうかと思えます。で、ホームページ等も活用しながら、そしてまたQRコードというんですか、ああいうものというのは非常に若い方は敏感に感じたり、見たりして取り入れてくれることあろうかと思えます。で、そういうものも広報紙並びに町のホームページ、そういうものに掲載して、このマチイロを広めていきたいと考えています。

そしてまた、先ほど議員御提案のイベントとか、そういう部分でも、小さいものであっても目につくような、そういうことを何かできたらいいかなというふうに考えております。で、ちょっと検討させてください。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（美野勝男君） 4番、町田富枝子君。

○4番（町田富枝子君） 先ほど言い忘れたんですけど、このマイ広報紙に掲載されると、利用者が気になる市区町村の広報紙をパソコンやスマートフォンでまとめてチェックすることができます。そして、地元周辺地域の最新のニュースや、マイ広報紙に掲載されている全国の市町村の情報や、過去のデータの検索もでき、大変便利です。もう一つ言いたかったのは、町外に住む子供さんが、紀美野町外に住む子供さんが高齢の親にかわって、紀美野町の情報チェックすることができて、そして重要な情報を見逃すことなく確認できる、そういうこともあって、安心のツールの一つと考えますので、本当に早急に前向きに考えていただきたいなと思います。

続いて、教育施設におけるミストシャワーの設置ですが、その後、美中において実施されたんですね。このことも、私も途中で聞かなかったの悪いんですが、こういうふうな、しましたよということがあれば、質問した議員に対しては、こうこうした結果であったというぐらいのお知らせをしていただければ、今後ありがたいなと思います。

そして、野小、下小に関しては、まだ子供さんたちには聞いてないのでしょうか、向こうがそういうふうな要望がない限り、町としては実施されないのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（美野勝男君） 教育次長、曲里君。

○教育次長（曲里充司君） すみません、いろんな学校で実施したこと、御報告漏れてたこと、まことに申しわけございませんでした。

現在のところ、各学校からは、あくまで要望を受けて私どもが設置するというような形をとっております。例えば野上中学校で、25年度の答弁で、野上中学校に設置させていただいたということで答弁させていただいてたんですが、現状のところ、なかなか利用をする制度がなくて、設置していないというのが近年続いております。ですので、あくまで、今のところこまめな水分補給、日陰での休むという対策を重視しながら、各学校の要望に応じて設置していくというような考えでございますので、そこら辺、御容赦いただきたいと思います。

○議長（美野勝男君） これで町田富枝子君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

休 憩

（午前10時34分）

再 開

○議長（美野勝男君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

（午前10時50分）

○議長（美野勝男君） 続いて、5番、田代哲郎君の一般質問を許可します。

（5番 田代哲郎君 登壇）

○5番（田代哲郎君） 質問に先立ちまして、昨日の大阪の北部地震でお亡くなりになった方々に心から哀悼の意を表したいと思います。あわせて、復興の一日も早くんことを祈りたいと思います。

それでは質問に移ります。

質問の第1点は、介護保険の生活援助利用制限について質問します。

政府は、10月からのホームヘルパーが高齢者を訪問し、調理や掃除を行う介護保険の生活援助を一定回数以上利用する場合、ケアマネジャーに市区町村への届け出を義務づけます。厚生労働省は5月2日、介護状態区分ごとに1カ月当たりの基準となる訪問回数を告示しました。その内容は、要介護1で27回、要介護2は34回、要介護3で43回、要介護4は38回、要介護5で31回となっています。

生活援助の利用制限の議論は、財務省が昨年夏、平均月9回程度なのに、月31回以上利用している人がいると、無駄遣いであるかのように言い出した、それがきっかけになりました。

3月28日付の東京新聞は、訪問介護利用制限に懸念、独居、老老世帯の生活援助はという見出しで、この問題を取り上げました。独居かつ徘徊、振戦があり、食べこぼしが多く、毎食後掃除する。食事形状も調整しないと食べないため、毎食調理している。認知症で食事摂取について心配あり。また失禁等の心配もあり、家族も遠方で週末日帰りの支援しか見込めない。これは生活援助中心の訪問介護を月に90回以上、1日3回以上利用しているケースの実例だ。

厚生労働省が市区町村に聞き取りし、昨秋公表した41市区町村から48例が報告されたが、このうち市区町村型が適切でない、つまり無駄と判断したのは2例のみ、残りは適切、またはやむを得ない支援だとしたと紹介しています。

そして、保険の運営者である市区町村でさえ必要と認めるサービスを制限しようとしていることに、現場関係者の反発は強まる一方、利用者側を代表して、介護報酬改定案を審議する社会保障審議会介護給付費分科会の委員を務めた認知症の人と家族の会副代表理事の田部井康夫さんは、財務省の方針を覆すことができなかつたのは非常に残念、生活援助は認知症の進行を緩やかにする側面もあり、利用制限はそうした生活の大きな妨げになる。要介護者を住みなれた地域で支える地域包括ケアシステムの考え方にも反すると運用撤回を強く要求する。

市区町村に生活援助の回数など、ケアプランを届けることになるケアマネジャーの立場から、日本ケアマネジメント学会理事の服部万里子さんは、ケアプランを全国平均の数で管理するのは、ケアマネジメントの専門性の無視に通じる。市区町村ににらまれたくないと、利用者の立場から外れて、届け出前にサービスを減らす自己規制も出かねないと危惧すると述べています。

5月10日の厚生労働省老健局振興課課長通達では、訪問介護における生活援助中心型サービスについては、社会保障審議会介護給付費分科会における議論を踏まえ、利用者の自立支援、重度化防止や地域資源の有効活用等の観点から、通常の利用状況からかけ離れた利用回数となっているケアプランについて、市区町村への届け出を義務づけ、そのケアプランについて市区町村が地域ケア会議の開催等により検証を行うこととしているとなっています。したがって、まず、ケアマネジャーなど専門職や、認知症の人と

家族の会など利用者の危惧、こうした人たちの危惧について、どう町として認識しておられるのか。そして、この中にある地域ケア会議の構成と役割についてお聞かせください。

質問2は、セミプレミアム農産物づくりの模索についてです。

国連は昨年末、2019年度から28年度、家族農業の10年に指定し、国際社会が小規模家族農業の重要な役割を認識、支援することを呼びかけました。輸出偏重や企業的農業の推進がもたらした、貧困・飢餓の拡大、地球環境の悪化を解決するには、地域に定着する家族農業を守り発展させることが不可欠となっています。日本の農業、農村も、輸入自由化や大規模化推進のもとで、農業者の減少と高齢化が進み危機が広がっています。先進国では最低の食料自給率も38%に低下しました。家族農業を中心に本格的に農業を再生する農政に転換することは、切実な課題です。

農林水産省が、2015年11月27日に発表した25年農林業センサス調査速報によると、主に農業で生計を立てている基幹的農業従事者は、2012年度全体調査に比べて13.8%減少の176万8,000人となり、初めて200万人を下回りました。平均年齢は1歳上昇の67.1歳となり、初の67歳代、65歳代以上が占める割合も前回61%から64.7%に拡大しました。

また、農業に携わった主婦などを含めた農業就業人口は19.8%減の209万人、高齢化と農業人口の減少は一層深刻になってくる状況が明らかになっています。高齢化を背景に、過去1年以上、作付をせず、今後も作付が見込めない耕作放棄地もふえ続けており、前回は約3万ヘクタール上回る42万4,090ヘクタールとなりました。

紀美野町の農家戸数は2010年、平成22年には859戸でしたが、2015年、平成27年には774戸と、5年間で121戸減少しました。耕地面積も2013年の818ヘクタールから2015年には792ヘクタールに減っています。農地の多くは急傾斜地に点在しており、高齢化が進む中、町は単独事業も含むさまざまな支援を行ってきましたが、耕作放棄がふえているのも現状です。高齢化とともに小規模農家が多い紀美野町の農業を支えるために、さまざまな試みも行われています。しかし、なお一層の粘り強いサポートが求められると考えます。

一方、近年は安心・安全な農産物、健康的な農産物、おいしい付加価値のある農産物という消費者ニーズに応える一つの方法として、農産物直売所が再評価されるようになってきました。直売所の特徴は産地で対面しながら、土地の農産物を購入できることで

す。道の駅などにある既存の直売所ではなく、地域住民が立ち上げ、田畑に囲まれた店に並ぶ農産物は、何となくおいしそうに見えます。こうした直売所は、農家が見えるということが大きな売りになっています。農産物をよく理解した農家との対話も、消費者をひきつけており、農家と顔見知りの地元住民が安心して購入しているさまも、ビジター客に信頼感を与えます。

紀美野町でもここ数年、地域おこしの取り組みとして、住民主体の農産物直売所が散見されるようになりました。こうした傾向は、過疎地域の衰退にあらがう営みとして、一つのヒントではないかと考えます。また緒についたばかりですが、これらの直売所にリピーターが定着するように、安心・安全だけではなく、おいしさや珍しさなどに少しでも付加価値を持つ、いわゆるセミプレミアム農産物づくりを地域とともに模索する考えはありませんか。

次に、特定外来生物の実態と周知についてお伺いします。

外来種により生態系や農林業への影響防止を目的として、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律、外来生物法が2005年より施行されています。この法律の目的は、もともとその地域に生息していなかった外来生物による生態系、人の生命、身体、農林水産業への被害を防ぎ、生物の多様性を確保し、人の生命、身体の保護、農林水産業の健全な発展に役立てることです。そのために問題を引き起こす外来生物を特定外来生物として指定し、その飼育、栽培、保管、運搬、輸入を規制し、その駆除などを行うとしています。

特定外来生物は、生態系や人の生命、身体、農林水産業への被害を及ぼした、その恐れのある外来生物の中から指定されます。対象は生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれています。そして、特定外来生物による被害が既に起きているか、おそれがある場合、必要があれば駆除を行うことになっています。

最近、紀美野町では、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクや指定に匹敵すると言われるナガミヒナゲシなどを見かけるようになりました。オオキンケイギクは5月から7月ごろにかけて黄色い目立つ花を咲かせる植物です。指定されているとは知らずに、またキバナコスモスの花が非常に似ているため、きれいな黄色い花を咲かせる草花として栽培してしまうと考えられています。荒地でも育ちますし、ちょうど今が見ごろです。カワラナデシコなど日本古来の種を消滅させてしまうおそれもあると言われます。オオキンケイギクは、多年草であり、種も地中で生きたまま越冬します。その

ために、翌年も発生率が高いと言われています。タンポポなどの綿毛で飛ぶことはないのですが、雨などに流されてどんどん拡散していきます。有効な策は種ができないうちに抜き取ることです。

ナガミヒナゲシは4月から5月にかけて紅色もしくはオレンジ色の花を咲かせる植物です。外来生物法で指定されていませんが、根と葉からアレロパシーという周辺植物の生育を強く阻害する物質が生み出されるため、指定されている植物に匹敵するか、それを上回る影響があることから、適切な取り扱いについて理解が必要と言われています。

紀美野町内での繁殖状況を把握することは難しいのですが、こうした外来生物についての調査と、町民への周知に取り組む考えがないかお伺いします。

以上です。よろしく申し上げます。

(5番 田代哲郎君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 保健福祉課長、湯上君。

(保健福祉課長 湯上ひとみ君 登壇)

○保健福祉課長 (湯上ひとみ君) 田代議員の1番目の御質問、介護保険の生活援助利用制限についてお答えいたします。

議員御指摘のとおり、本年5月2日付で、厚生労働大臣が定める回数及び訪問介護が公布され、本年10月1日から施行されます。

その趣旨は、利用者の自立支援・重度化防止や地域資源の有効活用等の観点から、訪問介護の生活援助中心型サービスが、通常の利用状況からかけ離れた利用回数となっているケアプランについて、市町村への届け出を義務づけとし、そのケアプランについて、市町村が地域ケア会議の開催等により検証を行うこととしています。

この地域ケア会議の役割につきましては、地域包括支援センター等が開催し、医療・介護等の他職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、ケアマネジャーの自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高めること、個別ケースの課題分析等を積み重ね、地域に共通した課題を明確にすること、地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげることです。今回、地域ケア会議の機能として、届け出られたケアプランの検証も行うこととなっています。

本庁の地域ケア会議は、毎月1回開催し、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー、理学療法士、栄養士、歯科衛生士などが参加していますが、必要に応じて医師や薬剤師、民生委員・児童委員さんや友人などの出席をお願いすることもあります。

さて、本町では、ケアマネジャーや介護サービス事業所に対し、今月の在宅連絡会で制度の周知を行ったところであり、自主規制につながらないように、適切なケアプランの作成により必要な回数は認められることも伝えました。

また、幸い、高齢者の状況や介護サービスの利用状況はおおむね把握できている状況にあり、また近隣の多くのケアマネジャーとは、日ごろから十分な情報共有ができているため、ケアマネジャーがケアプラン等で判断に迷う場合は、ふだんから気軽に相談を受けていますので、必要なサービス利用の助言ができるものと考えています。

多くのサービスを利用している高齢者の方の中には、さまざまな事情を抱えている場合もあり、状態像と照らし合わせてサービスが不足していると思われる場合には、要介護認定の変更申請の勧奨をすることも考えられます。このように回数が多いだけで、一律に是正を求めるものではありません。

本町では、認知症のひとり暮らし等、個々の状態や家庭環境を考慮しながら、必要な方が必要なサービスを受けられるよう、柔軟に対応していく所存ですので、御理解賜りますようお願いいたします。

(保健福祉課長 湯上ひとみ君 降壇)

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

(産業課長 米田和弘君 登壇)

○産業課長（米田和弘君） 私からは、田代議員御質問の2番目のセミプレミアム農産物づくりの模索についてをお答えさせていただきます。

農業生産者の拡大と所得の向上、販路を拡大する上においても、直売所は大きな役割を果たしており、これらの直売所が継続していくためには、何度も足を運んでいただけるお客様を一人でも多く確保していくことが大切であるかと考えます。

議員御指摘のとおり、現在、町内において緑の郷、小川の郷、雨山の郷など、地域住民主体の直売所が、それぞれ地域ごとに創意工夫を凝らした商品を取り扱い、皆さんの努力によって随分定着してまいりました。

その中で、最近、珍しさという点では、小川の郷直売所でマコモダケの販売、志賀野地域でイタドリの生産、また町全体として山菜のコゴミの生産販売に取り組んでいただくなど、栽培、加工、商品化については、地域の特性を生かし自主的に取り組んでいただいているところでございます。

従来からの柿、ミカン、梅、山椒のほかに、新たに珍しい作物を導入するとすると、

町の気候に合ったものであるか、実証実験的な側面が大きくなり、生産者の負担も過大になる上、価値を創出するためには、何より生産者自身がおいしいと自信を持って販売できるものでなければならぬと考えております。

議員御質問のセミプレミアム農産物づくりを、地域とともに模索する考えがないかとのことですが、町といたしましては、地域の特性を理解している地域が、みずからの創造性と工夫を十分に発揮した地域農産物の魅力を充分発信できるよう、周知方法や販路を応援し、県やJAなどの関係各所と連携を密にし、地域と寄り添ってともに考えてまいりたいと存じます。

以上、簡単ですが、セミプレミアム農産物づくりの模索についての答弁とさせていただきます。

(産業課長 米田和弘君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 住民課長、仲岡君。

(住民課長 仲岡みち子君 登壇)

○住民課長 (仲岡みち子君) 田代議員の第3問目の特定外来生物の実態と周知についての答弁をさせていただきます。

議員御指摘のオオキンケイギクにつきましては、特定外来生物として我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リストのうち、特に2020年まで総合的に対策が必要な外来種の中で、緊急対策外来種13種に含まれているものでございまして、改めて調査はしてございませんが、町内を巡回してみますと、庭先及び道端に今を盛りと咲いている状況でございますので、特定外来生物である旨の、住民への周知を図るため、防除策、方法も含めて、7月広報に掲載できるよう準備してございます。

今後も特定外来生物につきまして、各方面における専門的な意見を注視してまいりたいと考えてございます。

以上、簡単でございますが、特定外来生物の実態と周知、対策についての答弁とさせていただきます。

(住民課長 仲岡みち子君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 5番、田代哲郎君。

○5番 (田代哲郎君) 地域ケア会議の対応という、いわゆる介護保険の生活援助利用制限について、地域ケア会議での対応というのは柔軟に対応させていただきますということなので、一律に回数が多いからダメだということにはならないとは思いますが。

ただ、そういうふう届け出を一定の回数以上の生活援助を利用する場合は、届け出を必要とするというシステム、これは日本ケアマネジメント学会の理事の市町村ににらまれるというようなことは、我が町では起こらないと思いますが、しかし、気兼ねをして自己規制も出かねないのではないかという、そういう指摘ですね。そうでなくとも、一定の枠を超えているということで、地域ケア会議が招集され、その中に先ほど聞きますと、保健師、社会福祉士等を含め、全て専門職で構成されるようですが、その地域ケア会議が招集されて、その指摘に答えなければならないというのは、いわゆるそれで、いろいろ説明をしたりということもありますし、ケアマネジャーというのは、いわゆる専門職なので、そのプライドやモチベーションに影響するというふうには考えられないのでしょうか。その点についてお願いいたします。

○議長（美野勝男君） 保健福祉課長、湯上君。

○保健福祉課長（湯上ひとみ君） 田代議員の御質問にお答えいたします。

ケアプランの提出ということで、自己規制につながらないかということと、ケアマネジャー、専門職に対する指導によって、プライドやモチベーションに影響ないかということなんですけども、先ほどもお答えさせていただいたとおり、本町とか近隣のケアマネジャーとは、日ごろから情報交換を密にさせていただいておまして、高齢者の方の状況などの相談なども伺うことが多くて、ケアプランへの助言といいますか、相談は常々させていただいておるところで、新しく回数が多いから、近隣のケアマネジャーから突然提出されるということはほとんどないのではないかと考えているところです。そのため、そういうプライドとかモチベーションの低下には影響はないものと考えておるんですけども、住所地特例とか、遠方へ住まれていて、保険者が紀美野町という場合も結構ございまして、その者につきましては十分状態が、常々の状態が把握し切れていない場合もありますので、その場合はやはり提出いただいて、中身を確認させていただくということも発生するのではないかと考えております。それにつきましては、プライドとかモチベーションというのは、ちょっと遠方のケアマネジャーの方については、私も何とも申し上げにくいかもわからないんですけども、必要に応じて提出いただく分につきましては、モチベーションを下げるものではないと考えております。

以上です。

○議長（美野勝男君） 5番、田代哲郎君。

○5番（田代哲郎君） 私も現役の時代には、在宅連絡会議にも出席させてもらっ

たし、この町の行政と、介護居宅介護支援事業所との関係については、よくわかっているつもりですが、ただ、利用者の実態を一番よく知っているというのは、ケアマネジャーだと思います。だから、もともとこういうふうに届け出を義務づけるという通達自身が、私は不合理だというふうに考えています。何を基準にその場合に過度とかそうでないというのを判断するかというのは、利用者の状況を行政がよく把握していると言われても、町のほうに提出されれば、そこでチェックをするという話になって、一応は手続としてはそうっております。ケアマネがつくったケアプランを、実態を一番よく知っているのはケアマネのはずですから、ケアマネがつくってきたケアプランを、これは過度だ、これは過度ではないというのは、やはり判断しにくいと思います。どんな基準で判断するのか、よく理解できないですけど、その点についてはどうお考えなのか、お願いします。

○議長（美野勝男君） 保健福祉課長、湯上君。

○保健福祉課長（湯上ひとみ君） 田代議員の御質問にお答えいたします。

判断基準ということなのですが、やはり一番よく知っているケアマネジャーということですが、やはり必要に応じて御本人さんの状況を訪問等で確認させていただくとか、生活全てについて聞き取りということが必要になってくるのではないかと考えています。

先ほど、田代議員から質問のときにもございました、1カ月当たりの介護度による回数の上限につきましては、国は平成28年10月から1年間分の全国の給付実績をもとに全国平均利用回数プラス2標準偏差ということで、単純に出しているものでございまして、これはあくまでも1個のベースということで提示されているもので、町といたしましては、これで一つや二つ上がった、下がったということで、すぐに削除せえとか、そういう規制するものではないと考えるんですけども、何かやはりルールといたしまして、この回数がございまして、提出につきましては、必要に応じてやはり出していただくことにはなってしまうかと考えております。

以上です。

○議長（美野勝男君） 5番、田代哲郎君。

○5番（田代哲郎君） 行政としてもよくわかっているんですが、ルールという形になってくると、その回数を超えるとやっぱり提出をしてもらおうということになるわけです。だから、それを、その回数を厚生労働省が示した回数をオーバーしてでも、そのまま提出なしでいくということは、恐らくあり得ないというふうに思います。

その場合に、なぜかというのを利用者の状況というのは、あくまで私の経験からいえば、やっぱり一番よく知っているのは、ケアマネジャーであるわけで、だから、そこらのことをやっぱり十分尊重していただかないと、そのプライドをないがしろにするということが起こると思います。

最近、幾つかの居宅介護事業所のケアマネさんと会話したこと、この問題について話したことがあるんですけども、必要だからケアマネとしては計画を立てているという、オーバーした計画を立てている。今でも私の知っている例で、毎日、生活援助にヘルパーが入っている事例もあります。そういうところで聞いてみると、必要だから計画を立てているし、もし不相当と判断されれば、利用者や家族と相談して、もう実費で利用してもらうしか方法はないのかなという話に、そういうことを言われます。結局、そういうふうに回数が制限されて、それが不相当だという判断をされれば、どうしても結局、利用者負担になるということになってきて、いろいろサービスの有効な利用というふうに国は言うんですが、結局は、いわゆる利用の抑制ということに結びついてしまうと。そういう可能性はあると思うんですが、その点についてはどう考えておられるのかお聞かせください。

○議長（美野勝男君） 保健福祉課長、湯上君。

○保健福祉課長（湯上ひとみ君） 御質問にお答えいたします。

適正な利用というけども、やっぱり利用抑制につながるのではないかと御指摘かと思えます。国の制度ですので、市町村で勝手な行動というか、できないこともあるんですけども、おっしゃるとおり利用抑制につながることも一部あるかもしれないというのは、危惧はするところではあります。ただ、再三、先ほども申し上げましたとおり、実態に即した形で、やはり必要に応じて利用を継続できるような形にはしたいと思っておりますが、やっぱり、この状況を十分実態を把握するというのは、市町村の役割と申しますか、地域ケア会議もそうですけども、市町村の役割ではないかと考えておりますので、必要な利用ということを担保するというか、確認をしながら、提供できるようにはさせていただくつもりですので、御理解賜りますようお願いいたします。

○議長（美野勝男君） 5番、田代哲郎君。

○5番（田代哲郎君） 一つ懸念するのは、行政としても負担がふえてくるということが起こり得るだろうと思えます。現在の保健福祉課の状況というのは、非常に仕事の量が多いということ、業務の量が多いというふうに私は理解しているんですが、そう

ということが起こってくることもあるし、やはり当初の質問でも申しましたとおり、41の自治体で抽出して、その98の事例をチェックして、そのうち不相当と判断されたのは2例だけだったということがあります。だから、おおむねケアマネがそういうふうなケアプランをつくってくるときは、やっぱりいいかげんなことをつくってはいないと思うので、そこら辺のことも十分把握して事に当たってもらわないと、ただ、私の経験からいえば、ケアプランを上回っていますということで、自治体へ提出するということが、非常にプレッシャーのかかることだと思うので、だから、やはり国が決めたことなので、自治体としてそれを覆すことはできないと思うんですけども、やはりそういうケアプランに物差しを当てるといって、そういうのはやっぱりおかしいということ、やっぱり国にも意見を上げていただくということも必要だろうと思います。その辺についての考えをお聞かせください。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 田代議員から、何回と御質問いただいて、担当課長が答弁してまいりました。国からの通知が出たということで、それは無視できないということで、それはそれとして、そのルールにのっとって進めていくわけではありますが、基本として、当初に課長申しあげましたように、必要な方が必要なサービスを受けれるように柔軟に対応していくというのは、町の考えでございます。議員御心配いただくように、仕事の量もふえることも、もちろんあるかと思っております。それは行政としてはやむを得ないところであるというふうに思っておりますので、そしてまた、ケアマネジャーさんもこういったルールについては十分認識していただいているというふうに思っておりますので、それは町当局とケアマネジャーさんがしっかりと認識して、そういった国からの通知については、ルールということ認識して、今後対応していかねばならないであろうというふうに思っております。

いろいろと御心配いただいていることはありがたいことであります。しかしながら先ほど申しあげましたように、当町としましては、サービスを必要としている方がきちんとサービスを受けれることが大前提であるという姿勢は変わっておりませんので、御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（美野勝男君） 5番、田代哲郎君。

○5番（田代哲郎君） この問題にかかわっているうちに時間がなくなりますので、

必要な人が必要なサービスを受けられようという基本は変わってないということで、それはやっぱり町の姿勢として貫いていただきたいと思います。もともと介護認定で定めた給付限度額の枠内でのサービスにもかかわらず、そういう規制をかけるということ自体がおかしいので、その辺をきちっと今後も維持していただきたいと思います。

次に、セミプレミアム農産物づくりの模索についてお伺いします。

過疎とか限界集落といった言葉に象徴されるように、我が町でも農村は危機的状況にあると我が町だけではなく、全国のそういう過疎地の農村は危機的状況にあると言われてきました。一方、小さな取り組みでも自発的な地域づくりによって消滅することなく、生き残ろうとしている地域があることも事実です。田園回帰と呼ばれる農村への関心の高まりとともに、自発的な取り組みの積み重ねで、消滅に逆らおうとしている状況があります。

それが紀美野町でも起こっていることの本質だろうと思います。先ほどもいっぱい小川の郷を初め、雨山の郷とか、それから毛原のほうにもこういうのあるし、志賀野でもあるそうです。そういうふうに、それがやっぱりそういう小さな取り組みを自発的に重ねることで、消滅に逆らっていくという。

全国町村会の21世紀の日本にとって農山村がなぜ大切なのか揺るぎない国民的合意に向けてという提言があります。ちょっと古いんですが、農村の価値として、生存を支える。それを筆頭に、国土を支える、文化の基礎を支える、自然を活かす、新しい農業、産業をつくるの五つを挙げています。農村というのは、農業生産の場だけではなくて、環境の保持や文化、国土の保全など、国民の豊かな暮らしを実現するために重要な役割を果たしているというふうに指摘しています。

紀美野町の、確かに私の住んでいる近くでも、2枚の大きな田んぼが耕作放棄地になりました。ことしから耕作がされていません。だから、そういうふうにして衰退はとまってはいません。でも、そうした農村としての価値は今も変わらないと思います。だから、そういう価値観を共有するというか、そういう上で、行政としてやっぱり販路の拡大なんてそんなに簡単にいくものではないんですが、どんなサポートができるのか、模索が今、最も大切じゃないかと思います。そういうことが、やっぱりそういう取り組みをしておられる人を励ますことになって、地域が何とか生き残っていくという糧になるんだろうなというふうに思います。その点について、どうお考えなのか、考えをお聞かせください。

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

○産業課長（米田和弘君） 田代議員の御質問にお答えいたします。

田代議員おっしゃられますように、農業、農村につきましても、いろいろな多面性が持たれておりまして、農業を支えることによりまして、町の基幹産業であります農業の重要性というのは、行政としても認識しているところでございます。

農業といいますのは、農業技術は一朝一夕にはいかないもので、何十年の知識や経験というのが蓄積されまして、すばらしい農産物がつくれる、それが現在の一般的な農家の姿であろうかと思えます。それぞれ御質問の中で、セミプレミアム農産物ということになってございますけれども、現在、紀美野町にございますぶどう山椒であるとか、そういったもの、冷凍柿であるとか、そういったものにつきましても、町の最大限の資産であると認識しているところでございます。その部分を支えるために、町といたしましては、農業経営支援事業を初めとしたさまざまな支援策を行ってございます。耕作放棄地は、確かに増加しておりますけれども、中間管理機構等々を通じまして、新しい担い手の方につなぐという方法もとってございますので、町といたしましては、地域の自主性を最大限に尊重しまして、それに寄り添う形で支援をこれからもしていければと考えておりますので、御理解賜りたいと思えます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（美野勝男君） 5番、田代哲郎君。

○5番（田代哲郎君） 大きく言えば、コミュニティビジネスという農村におけるコミュニティビジネスと言えなくはないと思うんですけど、そういうのが生きがいとか、他人の役に立つ喜び、地域への貢献など、思いを同じくする人たちが自発的に集まって、それから地域みんなに役立つサービスを生産、提供して、公益性ですね、自発性と公益性において、あと、そこから生まれた経済的利益すなわち剰余金の分配は、これを目的としないし、営利性ということは基本になるそうです。

小川の郷直売所に関しては、まだ月に2回しかやってないんですけど、月に1回は必ず訪れています。おとつも行ってきました。もう立ち上げた当初は長く続くのかなと思ったんですが、もう4年たったということで、かなりにぎやかになってきました。感心なのは、農産物が行くたびにふえてるんです。いろんな種類が。おとつも行ったら、いっぱい並んでまして、地域のリーダーの人は、皆さんがいっぱい出してくれるようになったんで、非常に助かるということで、あそこは生石山への登山道の途中なんで、場

所的にも観光地というか、通る人が寄ってくれるということがありますが、安心・安全というだけではなく、珍しかったり、おいしかったり、野菜たくさん買ってきただけですけど、非常においしかったです。少しでも付加価値のある農産物を売ることができればと思います。

答弁でも言われましたように、紀美野町にはミカンや柿、山椒、それから梅なども付加価値のある農産物はあるんですが、それは第2種兼業農家がつくれるというものではないんです。最近、コゴミの栽培などにも取り組まれています、これも普及すれば、そういうところで売れる物の一つになると思います。ですけども、皆が同じ農産物を目指すより、少しでもいいから珍しいかおいしいか、そういう農産物をつくる手だてをできたらなと思います。

やるか、やらないかというのは住民の思い次第ですが、大きなことを考えなくても、ヒントを提供する、情報を集めて、どこではこういうことをやってるよとか情報を集めて、地域へ提供するというだけでもいいのではないかと思います。その点についての考えをお聞かせください。

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

○産業課長（米田和弘君） 田代議員の御質問にお答えいたします。

御提言の内容なんですけれども、ありがたく頂戴いたします。それと、直売所といいますのが、各それぞれ情報交換の場として機能している部分もあろうかと思います。直売所を中心に新しいコミュニティの形成というのも今後必要になってくるのかなと、それで、農業所得の向上も含めて進めていければとは思っております。いずれにせよ、地域住民の方と一緒に農産物についても考えていきたいなとは思っておりますので、以上、答弁とさせていただきます。

○議長（美野勝男君） 5番、田代哲郎君。

○5番（田代哲郎君） 余り時間がないのに、1回だけ、次、特定外来生物について質問します。

和歌山県の環境生活部ホームページにも、ナルトサワギクというのも掲載されているんですね。オオキンケイギクが特定外来生物として掲載されています。そこに、オオキンケイギクって写真見たら、みんな、これかって、これどこにもあるようでして、ただ、こんな石垣にも生えます。これがすごい繁殖力で、これは紀美野町での例です。こんな石垣にも根を張っていくんです。それがどんな、こういうふうのにり面などでは瞬

く間に広がって行って、最終的に、ちょっと写真写り悪いんですけど、こうなったらもう絶対に駆除できないんです。どうすることもできません。これが最近の研究では、抗がん物質を含んでいると、抗がん剤にもなる。幾ら抗がん剤になっても、こんな状態になってね、普及させて、こんなになってから抗がん剤がとれるって重宝しても、これでは意味がないんで、それだったらそれで広がらんとところに栽培して、とにかくもう、こうならないうちに、やっぱり周知徹底して駆除しないと、こうなってきたらもう絶対に駆除、もう引いても引いても次から次に出てきます。

それとナガミヒナゲシというのは、まだそれほど目立ったあれはないんですけど、そんなに繁殖力はないんですけど、最近ちょっとずつ目立つようになりましたが、周りの周辺植物をあれすると、生育を強く阻害する物質を持っているということで、指定はされてないんですけど、注意が必要だということになってます。

ただ、県のホームページに掲載されているナルトサワギクというのが、町内でもあるんかどうか、全然わからへんです。マダガスカル原産の外来種で、繁殖力が強く、これは毒を含んでいるというふうに言われます。我が国本来の生態系に影響を与える可能性があるということで、これは1年中、オオキンケイギクは今が見ごろですけど、これは1年中咲くそうです。繁殖力もこれも非常に強くて、急速に分布が拡大しているというふうに言われます。アルカロイドの一種であるセネシオニンや、セネシオフィリンなどを含むために、草食動物、例えばヤギとか、それが間違えて食べたら、有毒だそうです。死ぬかどうかわかりませんが、採草地とか放牧地に侵入した場合は、家畜が中毒症状を起こすこともあるそうです。牧場っていうのは紀美野町は少ないんですけども、そんなこともあるんで、このナルトサワギクについても、町内での繁殖状況などを把握してみていただければいいと思うんですけど、その考えはないか、その点だけお伺いします。

○議長（美野勝男君） 住民課長、仲岡君。

○住民課長（仲岡みち子君） 議員御指摘の総合的に対策が必要な外来種の中に、議員おっしゃる13種の中にナルトサワギクも含まれてございます。どういった花かというのは、把握してないんですけども、合わせまして、13種のうちに紀美野町にあるのかという、また見させていただきたいと思います。

そして、今回、こういったチラシに似たものをつくろうと思っておりまして、掲載させていただく予定でございます。そして、ナガミヒナゲシにつきましても、影響はないということはありません。大変かわいいものでございます。それで、これにつきましても、

できましたら栽培しないようにということで、これについては広報はしてないんですけども、とりあえず2020年までという国の方策でもございますので、これにつきましての広報はさせていただく予定でしております。

以上、簡単ですが、答弁させていただきます。

○議長（美野勝男君）　これで田代哲郎君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

休　憩

（午前11時48分）

再　開

○議長（美野勝男君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

（午後　1時26分）

○議長（美野勝男君）　続いて、6番、西口　優君。

（6番　西口　優君　登壇）

○6番（西口　優君）　まず1点目です。100歳まで安心して暮らせるまちづくりについて。

超高齢社会を迎えています。これからは100歳が当たり前の時代がすぐそこにやってきます。人は生きていく上で必要なものは、安心と生きがいだと思います。福祉が充実してきて食べるのにはそんなに困らなくなりましたが、高齢者の生きがいつくりをどう考えるか。

2点目です。見守り電話サービスについて。

奈良県高取町では、高齢者の健康状態を電話で毎日確認し、家族などに通知するサービスを5月から導入することになりましたとのこと。このみまもりでんわサービスは、高齢者の健康状態を毎日、自動音声による電話で確認し、その結果を家族や町の担当者などにメールで知らせるサービスで、日本郵便が提供しています。高取町は、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進める一環として、このサービスの導入を決め、4月23日、日本郵便との間で協定を結びました。町は今後、65歳以上の高齢者の世帯を対象に希望を募った上で、来月からサービスを導入する予定で、町がおよそ半額を負担し、高齢者は1世帯当たり500円でサービスを利用できるということです。高取町は、65歳以上の高齢者の割合を示す高齢化率がおよそ38.7%と高く、町は多くの

高齢者に利用してもらいたいとしていますが、紀美野町の高齢化率のほうが45%と高くなっています。紀美野町は面積が広く隣が離れているところもあり、一人世帯がふえてきているなど、孤独死が起こっています。紀美野町でもこのような見守りサービスを提供することはできないですか。

3点目です。提言箱について。

行政の基本は民意を取り入れることだと思います。役場入り口に住民の意見を直接取り上げるために提言箱を設置していますが、ある人に指摘を受けました。意見があればここまで来いでは、交通弱者に対する配慮が足りない。これからの高齢化社会を迎え、町民の意見を集約するために、各地区の集会所へ設置にするようにしてはどうか。

4点目です。広域へのバス運行について。

さきの議会でふれあいバスを広域運用できないものかと質問いたしましたが、新聞にして配ると、紀の川市のほうへも公共輸送ができるとよいのにとの声が多く出てきました。さきの答弁では、バスにより町外まで広域的に行き来できるようになることは、大変利便性の大きいものであると思いますので、今後もコミュニティバスの運行については改善を図り続けてまいります。その延長として広域連携での取り組みについても研究してまいりたいと考えますとの答弁でした。

行政は住民の要望を実現化することだと考えます。紀の川市方面への公共輸送についてのニーズがどの程度あるのかを調査して、多ければ実現に向けて具体的な対策をとるべきでないか。

5点目です。コミュニティスクールについて。

野上中学校の入学式に参加いたしました。野中だよりの中に本年度よりコミュニティスクールとなる旨の説明が書かれていました。ネットで検索すると、コミュニティスクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める法律に基づいた仕組みですと書かれていました。野上中学校がコミュニティスクールとなることによって、具体的にどのように変わっていくのか。

6点目です。野上中学校の新入生について。

野上小学校の卒業生が33名、そのうち野上中学校への新入生が28名でした。5名が他の中学校へ進むということについて、個人の自由と言ってしまうかもしれませんが、親は絶えず子供の一生を考えて導いています。紀美野町から他校へ通うには、本人と保

護者は大変な負担を要しますが、それでも野上中学校にない何かを求めて他校への進学であればとも思ってしまうのです。33名中の5名は大きい比率です。何が原因と考えるか。また今後の対策はどのように考えているのか。

7点目です。先生の指導力アップについて。

埼玉県では、小4から中3まで毎年、学力テストを実施、子供一人一人の学力をデータ化し、1年ごとの学力の伸びを把握している。この結果、子供だけでなく先生の指導の成果まで数値化されるので、先生は、子供たちの学力を伸ばした先生の授業を見学し、そのポイントを学びとることにより、先生の指導力アップにつなげているとのこと。子供の成績は先生の指導力によって大きく変わってきます。このような方法を紀美野町でも取り入れることはできないものか。

8点目です。指定管理者制度について。

かじか荘が指定管理者制度によって運営されています。経営について口を挟むものではありませんが、町有財産が有効利用されてこそ町の活性化につながるものです。公費から指定管理料も年間約1,100万円支払われています。年々の集客力の推移はどうなっているのか。

9点目です。雨山の郷について。

ことしも見事な桜の開花を見せてくれて、紀美野町の一つの名所となっていますが、桜の開花時期が春先の数日と限られていて、余りにももったいないとのことでもあります。あの雨山の郷に、時期をずらした別の花を植えてオールシーズンの集客にしてはどうか。

10点目です。トンネルの工法について。

3月11日、桂瀬松ヶ峯トンネルが供用開始されました。聞くところによると、トンネルをつくる時、発破によって近隣住宅が振動により瓦がずれるなどの被害があったとのこと、金銭による補償が支払われたと聞かせていただきましたが、公共工事で被害が起こってはいけません。もう一つのトンネルが予定されています。次のトンネルをつくる際は、工法を考えるべきでないのか。

11点目です。河川への土砂流入について。

福田地区において河川への土砂流入が起きました。自然災害というには、余りにも無理なところへの造成工事だったようにも見受けられます。公共物である河川への土砂流入はあってはならないものです。業者指導はどのように行っていたのか。

12点目です。食用油の回収について。

紀の川市では食用油をペットボトルに入れて回収してくれるそうです。各支所に回収ボックスを設置してあり、それを職員が週1で回収に回って、紀の海クリーンセンターで一時預かり、それを業者が回収して再資源として利用しているとのこと。紀美野町でも住民がふだんの生活の中で廃油は出てきます。紀の川市のように回収できないものか。以上です。

(6番 西口 優君 降壇)

○議長(美野勝男君) 保健福祉課長、湯上君。

(保健福祉課長 湯上ひとみ君 登壇)

○保健福祉課長(湯上ひとみ君) 私のほうからは、西口議員の1番目の御質問、100歳まで安心して暮らせるまちづくりについてと、2番目の御質問、見守り電話サービスについてお答えいたします。

1番目の、100歳まで安心して暮らせるまちづくりにつきましては、議員御指摘のとおり、平成29年9月15日現在の推計では、我が国の総人口に占める65歳以上の高齢者人口割合は27.7%であり、世界一の超高齢社会となっています。本町では、本年5月末現在の高齢者人口割合は44.7%と非常に高く、100歳以上の方は17人いらっしゃいます。

高齢者の安心につきましては、日々の生活の中で、家族や友人等では解決できないようなさまざまな心配事に対する相談や、介護や福祉などの制度の理解が欠かせないと考えます。そのため本町では、民生委員・児童委員の皆様にご協力をいただきながら、地域包括支援センターの業務として、保健福祉課で総合相談窓口を担っており、窓口に来ることが困難な場合は、訪問による面談も行っております。今後も、制度等の理解を深めていただくために、引き続き広報紙等での周知に努めてまいりたいと考えております。

高齢者の生きがいづくりにつきましては、高齢者自身が楽しみを持って生活ができることだと考えています。そのためには、働くことや社会参加活動を行っていただくことが楽しみとなり、御自身の健康維持や介護予防にもつながり、地域福祉の推進にもつながるものと考えています。

本町はこれまで老人クラブや地域サロン、介護予防の自主活動への支援や、シルバー人材センターへの運営支援を行うなど、高齢者の生きがいづくりや社会参加活動の充実を図ってきたところで。

特に、地域サロン定着前と後の生活状況の切り取りの比較では、外出がおっくうと感

じる方、余暇をもてあます方、1日中一言もしゃべらない方、近所づき合いがないと思う方、仲間づくりをしたくない方が減少傾向となり、高齢者の生きがいくりに効果を上げていると考えています。

今後も引き続き、高齢者の生きがいくりのために、地域の皆様方の御協力をいただきながら、さらなる支援を行っていく予定ですので、皆様の御協力、御理解を賜りますようお願いいたします。

次に、2番目の見守り電話サービスにつきましては、議員御指摘のとおり、日本郵便が高齢者の見守り電話サービスを開始しており、本町へも説明に来てくれたことがあります。このサービスの内容は、毎日決まった時間帯に利用者宅に電話がかかり、自動音声で健康の状態を聞いてくれ、利用者が健康か、いつもどおりか、そうでないかをダイヤルを押すことで回答し、その結果を家族等にメールでお知らせできるサービスです。

本町では、現在、大阪ガスセキュリティーサービスに委託し緊急通報装置貸与事業を実施しており、緊急時にボタンを押すことで緊急事態を自動的に受信センターに通報し、協力員さん等の御協力をいただき、緊急時の早期対応に努めているところです。

そのほか委託先のセンターの看護師から毎月1回電話がかかり、相談ができるようになっていきますし、また利用者が任意の時間帯で相談ができるサービスもあり、24時間体制で看護師と直接やりとりができる状況となっています。

本町におきましても、以前、日本郵便より打診があった際には、検討も行ったことがあります。利用者本人からの緊急時の連絡に課題が残り、導入に至っていない現状です。

なお、このサービスにつきましてはまだ始まって間もないこともあり、その内容について十分検討するとともに、他市町村の状況など研究を重ねてまいりたいと考えておりますので、御理解賜りますようお願いいたします。

(保健福祉課長 湯上ひとみ君 降壇)

○議長(美野勝男君) 総務課長、細峪君。

(総務課長 細峪康則君 登壇)

○総務課長(細峪康則君) 私からは西口議員の3番目の質問、提言箱についてと、4番目の広域へのバスの運行についての御質問にお答えをします。

まず3番目の提言箱についてのお答えです。

議員には平成28年6月議会において、提言箱に関しての御質問をいただいております。

して、今回の答弁と重複するところもあろうかと思いますが、御容赦願いたいと思います。

議員御指摘のとおり、役場は民意を行政に反映すべきものであることは十分認識してございます。その一環として現在、提言箱を役場本庁と美里支所の2カ所、それぞれ玄関付近に設置してございます。

提言箱に投函された件数を申し上げますと、平成28年度には3件、29年度には5件、30年度においては昨日までに1件であります。その内容は、ごみ袋、風力発電、路面の凍結防止、公園の管理など生活に密着した御提言を多くいただいております。

いただいた御提言は、まず総務課で受け付けをし、町長まで目を通してもらい、町長と担当課で対応策を協議します。連絡先が記載されている方につきましては、説明に伺うなど誠意を持って対応してございます。最終的には、対応や改善した結果などを町長に報告しているところです。

身近な存在である役場は、住民の皆さんとの距離が近いこともあり、提言箱以外でも町長宛ての電話を初め、手紙やはがき、また役場の代表アドレスメールへの提言や要望、相談が多く寄せられております。このような形で提言などが届いた場合でも、提言箱のときと同様、町長の指示のもと、担当する課に伝達し、早急に説明に伺い、調査や現状の把握に努めるなど、心がけているところでございます。

さて、地区集会所に提言箱を設置してはどうかとの御提案でございますが、集会所は地区に管理をお願いしているため、常時開いておりません、あいておりません。また71施設でございますので、改修作業にも相当な時間を有しますので、現時点では集会所への設置は考えてございません。

御理解賜りますようお願いをいたします。

西口議員の4点目の広域バス運行についての御質問にお答えします。

バスの広域的な運行については、利便性の大きなものでありますし、町といたしましても研究してまいりたいとの考えは、さきの議会での答弁のとおりであります。

バスの利用状況を申し上げますと、町が運行しているコミュニティバスを初め、大十バス株式会社が海南方面へ運行している路線バスにつきましても、利用者が年々減少してございます。この状況にあって、町外までの路線を新たにふやすということは、財政面との兼ね合いもありますので、町としましても慎重に考えていきたいと思っております。

紀の川市方面につきましては、平成18年4月から平成20年3月まで、大十バス株式会社が登山口から貴志駅までの間、路線バスを運行しておりました。その間、当初4往復で運行していたものを利用者数をふやすため5往復にふやすなどの工夫をしながら運行してまいりましたが、利用者が思うようにふえず、採算面から2往復となり、最終的には廃線となったという経緯がございます。

さて、バス事業等の地域公共交通については、原則的には民間事業者によって担われるべきものでございますが、採算面等の問題から民間事業者においてはどうしても行えず、真に必要な部分につきましては、行政が補完せねばならないと考えてございます。

町といたしましては、現時点では財政負担とのバランスも考慮しながら、大十バス株式会社の意見等もいただきつつ、広域運行について研究してまいりたいと考えておりますので、御理解のほどお願いをいたします。

(総務課長 細峪康則君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 教育次長、曲里君。

(教育次長 曲里充司君 登壇)

○教育次長 (曲里充司君) 私のほうからは、西口議員の五つ目の質問、コミュニティスクールについて、六つ目の質問、野上中学校の新入生について、七つ目の質問、先生の指導力アップについてお答えさせていただきます。

まず、西口議員の五つ目の質問にお答えさせていただきます。

簡単にコミュニティスクールについて御説明させていただきます。

コミュニティスクールとは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6に規定されている学校運営協議会を設置している学校で、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる、地域とともにある学校への転換を図るための有効な仕組みです。

コミュニティスクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。これまでも本町の小・中学校では、地域に開かれた学校として、地域の方々との連携を進めてきましたが、これからはもっと積極的に、地域とともにある学校として取り組みを進めていくこととなります。

例えば、今まで児童・生徒と先生、それに地域の方々为学校ボランティアとしてかかわっていただき、学校でふるさと学習などの授業を行っていただいております。

そこには、児童・生徒、先生、地域の方々の3者で、地域の方々が先生を手伝い、先生が地域の方々を手伝い、児童・生徒が参加する形で事業を行ってきました。今後もお互いより強固な関係を築き、子供と一緒に育てる環境を整備することとなります。

また、コミュニティスクールには、大きな三つの機能があります。一つは、学校運営の基本方針の承認です。これまで学校長が定めてきた基本方針を、学校運営協議会で示し、承認していただくことで、地域の方々がより積極的に学校運営に参画できるようになります。

二つ目に、学校及び地域の持つ課題解決のための具体的な手だてを協議する場であるということです。学校の課題を学校だけでなく、また地域の課題を学校とともに解決していくために協議し取り組む。このようなことを進めていきます。

三つ目に、年度末には、地域に対し学校運営状況の説明と情報交換を行う報告会を学校運営協議会において開くことで、振り返りと次年度への方針のための修正をしていきます。

もともと本町では、学校運営について、地域の方々の御支援、御協力のもと進めてまいりました。コミュニティスクールの取り組みを進めることで、学校の目指す子供像を地域の方々と共有し、保護者や地域住民の方々が子供たちに積極的にかかわり、子供の成長を支えていく。

また、地域の方々からの学校への協力支援だけでなく、学校が地域に対し、何かしていけないか、いわば恩返しができないか、その中で、学校と地域がより強固なきずなで結びつき、地域を発展させ、子供のより豊かな成長を望めると考えています。

本年度よりコミュニティスクールがスタートします。今後の御支援、御協力をお願いします。

続きまして、西口議員の六つ目の質問にお答えさせていただきます。

町内小学校から中学校へ進学する際に、町外へ就学する児童は例年数名おります。主な進学先は、県内県立中学校及び私立中学校です。進学先を野上中学校としない理由は、家庭により一人一人異なると思われまます。

主な進学先の一つである県立中学校は、中高一貫教育を特色とし、高等学校入学者選抜の影響を受けることなく、中高6年間の計画的・継続的な指導を受けることができる利点があると考えられております。私立中学校も中学校からの進学者は中高一貫で学習が進められ、また私立独自の学校方針により教育が進められます。

進学先を決めるのは、保護者や児童であり、そこにどのような理由があるかはそれぞれであり、一概には言えませんが、市町村立の中学校とは違う特色があるのは確かです。そのどちらに魅力を感じ進学先を決めるのかは個人の問題ではありますが、町内の中学校で学んだ子供たちが母校を誇りに思えるような教育を目指し、先生方は日々努力をしています。

教育委員会としましても、各校の魅力ある学校づくりをこれからも支援してまいります。また、そのことが町内中学校への進学率を上げることにつながると考えております。どうぞ御理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

続きまして、七つ目の質問にお答えさせていただきます。

現在、紀美野町の小・中学校では、和歌山県の進める学力向上プログラムに沿って、子供たちの学力向上に向けた取り組みを行っております。町内の児童・生徒の学力を調査及び把握するものとしては、国が行う全国学力・学習状況調査、県が行う和歌山県学習到達度調査の二つがあります。これらの全国学力・学習状況調査、和歌山県学習到達度調査をもとに、児童・生徒の学力状況を把握し、分析することで、児童・生徒の課題を明確にし、その課題克服に取り組むことで、学力向上につながるよう取り組んでおります。

また、全国学力・学習状況調査は毎年小学校6年生及び中学校3年生が対象になっているため、その学年の1年ごとの状況を追いかけることはできませんが、県の到達度調査は小学校4年、5年、中学校1年、2年と多年度にわたって行われるため、その学年の学力の伸びをある程度把握することができます。それを学習指導に生かし、子供の学力向上に取り組んでおります。

議員御質問の先生の指導力アップについてですが、当町の場合、児童・生徒が少なく、教員数も少ないため、教科によっては比較検証できる教員がないなど、教員の指導成果を数値化したところで十分機能するようなものとは、なり得ない状況も考えられます。

そのため、町内各校では、現在、紀美野町に適したさまざまな方法で指導力アップに取り組んでいます。

まず、各校の研究目標に沿った授業改善、指導力アップに取り組んでいます。一例を挙げますと、美里中学校では協同学習という小集団を活用した指導方法による授業改善により、指導力アップに取り組んでいます。

また、和歌山県が主催する各種研修会への参加や、全国各地の先進校の研修会、研究

会に参加して勉強することで、指導力アップに取り組んでいます。一例を挙げますと、筑波大学附属小学校など先進校への研究会参加、また下神野小学校では同校から講師をお招きし、町内の先生方の指導力向上のための研修を行っております。もちろん校内での日々の研修も積極的に行っております。各校では、校内の授業研究会を行っており、1人の先生が授業を行い、その授業からよいところを学ぶとともに、より高いレベルの授業を行うための改善点を協議するなど、授業力向上に取り組んでおります。その授業者は、経験豊富なベテランであったり、また逆に若手教員が行い、指導を受けたりするなど、さまざまなバリエーションで研修を行っております。

教師にとって指導力、授業力の向上は、これで終わりというものではありません。そのことを十分認識し、先生方は日々の授業実践に取り組んでおります。これからも町内児童・生徒のため、町内の学校に適した形で、先生方一人一人の授業力向上、指導力向上に向け、教育委員会として引き続き取り組んでまいりますので、御理解、御協力をお願いいたします。

(教育次長 曲里充司君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 企画管財課長、坂君。

(企画管財課長 坂 詳吾君 登壇)

○企画管財課長 (坂 詳吾君) 私のほうからは、西口議員の8番目の指定管理者制度についての御質問にお答えいたします。

美里の湯かじか荘の管理に関して町が指定管理者の指定を行う意義は、民間事業者の能力を活用しつつ、地域資源の有効活用を図り、農林業の振興、地域住民のコミュニティ活動の推進及び都市住民との交流等の拠点施設として、より一層の地域の活性化を図ることとなっております。

平成25年より丹生の都プロジェクト株式会社が指定管理者として、美里の湯かじか荘本館、新館、毛原オートキャンプ場の3施設を管理しております。

議員御質問の集客力の推移についてですが、平成25年度は約5万人、平成26年度は約4万5,000人、平成27年度は約4万7,000人、平成28年度は約4万5,000人、平成29年度は約4万3,000人となっております。

平成29年度実績で比較しますと、当初より約7,000人の減少となっております。主なものとしたしましては、入浴者数が約6,000人、レストラン利用者数が約1,000人の減少が影響しているものと思われま

これらの主な要因につきましては、本館のレストランの休止によるものや、本館施設の老朽化等によるものと思われまます。

なお、宿泊人数につきましては、年間約5,600人でほぼ横ばいとなっており、毛原オートキャンプ場の利用者については、当初より約800人多い約4,700人となっております。

指定管理者である丹生の都プロジェクト株式会社につきましては、自然を生かしたツアー・イベントの企画、みさと天文台とタイアップした集客事業、恒例の風物詩となっている流しそうめんや、小川地区公民館サークルリサイクルアートさんのよみがえりのひなびな等の作品展示や、各種イベントの実施、SNSを利用した営業活動、ホテルコンサルタントの方々との勉強会等の実施など、さまざまな事業に取り組んでいるところであります。

町では、文化センターみさとホールを活用したまちづくり事業として、音楽合宿の誘致に取り組んでおり、このことによるかじか荘の利用実績もふえつつあり、今後、強力で推進してまいりたいと考えてございます。

また、国道370号の改良も順調に進んでいることもあり、今後、指定管理者、町とともに、美里の湯かじか荘の利用者の増加を目指し、より一層の活性化を図ってまいりたいと考えてございますので、御理解賜りますようお願いいたします。

(企画管財課長 坂 詳吾君 降壇)

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

(産業課長 米田和弘君 登壇)

○産業課長（米田和弘君） 私からは、西口議員御質問の9番目の雨山の郷についてお答えさせていただきます。

議員御質問の、雨山の郷公園ですが、春の桜まつりは、見事な桜が咲き誇り、すばらしい桜並木を求め、多くの来園者でにぎわっており、紀美野町の観光名所として定着してまいりました。

この施設は御存じのとおり、地元有志の雨山の郷プロジェクトの皆さんが指定管理を受託し、平成29年度には桜まつりや紅葉まつりで茶屋への来場者数が約4,710人と年々増加していると伺っております。

また、縮砂ずしなど地元産品販売についても、雨山の郷ならではの名物も開発され、中山間地域の里山の元気と可能性を十二分に発揮していただいております。

さて、桜以外にも別の花を植えてオールシーズンの集客をしてはどうかとの御質疑ですが、現在も雨山の郷プロジェクトの皆さんが、桜のほかにもアジサイやハナショウブ、また秋にはモミジなどの取り組みを行っていただいております、今はまだ十分とは思っていませんが、それらの方々の自主性や方向性に沿った環境整備をともに知恵を出し、雨山の郷公園がさらに魅力のある充実した施設となるよう、また地域と地域外を結びつける中山間地域の核となって、地域の皆さん方の自主的な創意工夫と地域特性を十分に発揮できるよう、町といたしましては応援してまいりたいと考えます。

以上、雨山の郷についての答弁とさせていただきます。

(産業課長 米田和弘君 降壇)

○議長(美野勝男君) 建設課長、井村君。

(建設課長 井村本彦君 登壇)

○建設課長(井村本彦君) それでは、私のほうからは、西口議員御質問の10問目のトンネル工法についてと、11問目の河川への土砂流入についてお答えをさせていただきます。

まず10問目のトンネルの工法について答弁をさせていただきます。

議員御質問の国道370号美里3工区及び美里4工区の事業実施につきましては、現在、県工事として海草振興局建設部海南工事事務所において実施されているところでございます。県によりますと、土木工事を実施する際には、近隣の家屋等への振動や騒音など対策について、工事着手前に十分配慮しながら工事を進めますが、現場条件などにより近隣家屋等に被害が出る場合があります。このことは、どんなに配慮して工事を進めても防ぐことができない場合があります。現在の制度では、このような場合に工事完了後に金銭による補償をすることとなっています。

このため、工事着手前に影響が出そうな範囲について家屋調査を行い、工事完了後に申し出により再度家屋調査を行い、工事による影響と判断される場合には補償を行います。

次のトンネルにつきましても、影響が予想される箇所について家屋等の事前調査を行い、工事完了後に申し出により事後調査を実施し、工事による被害と判断された場合は、金銭補償する方法とさせていただきたいと考えています。

なお、トンネルの施工方法については、地山の状況や経済性、近隣の家屋等の状況など総合的に判断し決定していますとのことでございます。

町といたしましては、安全に工事が進められるよう要望してまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

以上、簡単ですが答弁とさせていただきます。

続きまして、11問目の河川への土砂流入についてお答えをさせていただきます。

議員御質問の福田地区における貴志川への土砂流入についてでございますが、議員御承知のように、貴志川は県の管理河川となっております。したがって、河川管理者は県となります。県によりますと、今回の紀美野町福田地区の盛り土については、河川区域外の民地であったことにより、河川管理者として指導等は実施していませんとのこと。県としては、現在、崩壊斜面から河川へ土砂が流入する可能性があるために、地権者と話を進めているところと聞いており、町といたしましても、県に対しまして、早急に対応していただけるよう要望してまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りますようよろしくお願いをいたします。

以上、簡単ですが答弁とさせていただきます。

(建設課長 井村本彦君 降壇)

○議長(美野勝男君) 住民課長、仲岡君。

(住民課長 仲岡みち子君 登壇)

○住民課長(仲岡みち子君) それでは、西口議員の御質問の第12問目の食用油の回収について御答弁させていただきます。

食用油の回収につきましては、紀美野町で以前検討したことがございます。そのときは、排出量が少ないということで導入を見送ってございます。

紀の川市は、食用油を拠点収集し、市単独で処理しています。これにより年間約2,000リットルが処理されているということでございます。その量を紀美野町に換算すると、人口比では約300リットル、ごみ排出量比では約220リットル排出される見込みになります。いずれにしましても、排出量が非常に少ないと考えています。

また、紀美野町のごみ収集方法については、基本的に有料によるステーション回収を用いています。紀美野町で食用油を収集するとなると、拠点の整備や食用油を入れるための町指定容器を作製する必要もあります。いずれにいたしましても、この数量では、収集処理経費が大幅に要すると判断したため見送ったものでございます。

以上、食用油の回収について答弁とさせていただきます。

(住民課長 仲岡みち子君 降壇)

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） まず1点目です。高齢者になると外出がおっくうになると、こういうふうな、確かにそうだと思うんですよ。そういった中で、まず現実問題として、高齢化率が高くなっている、当然、絶対人数というのは多なってるはずやし、そんなん考えたときに、当然、役場でもふれあいサロン、いろんなそういうふうな施設というのが稼働して、なかなかよく受け入れ態勢としてはよくできてると思うんやで。ただ、それやったら、高齢者がふえてくる比率で、大体ふれあいサロンなんかそういうふうな施設の利用者が一定の割でふえたら、ああ、それはそれで、もう、そういうことになるんやろうなと思うんやけど、その辺の認識というのはどういうふうになるんですかね、その認識。

例えば、実際に高齢化率がふえてくると、施設というのは、実際にはふえてないから、一つの施設の利用者がふえてこなきゃいけない。もしふえてないんであったら、それによって利用できない人がふえてるということになってくるはずですな。だからある程度利用者が同じ、今までと同じ理屈でふえていけば、利用する人はするだけの施設があるんやろうなっていうことになるんやと思うけど、ただ、それと高齢者の出会いの場所の提供というんですかね、そういうふうなことが、何らか必要かなと思うんやけど、その点についての答弁を求めたいと思います。

○議長（美野勝男君） 保健福祉課長、湯上君。

○保健福祉課長（湯上ひとみ君） 西口議員の御質問にお答えいたします。

高齢者が絶対数ふえてくるということなのですが、実は町住民全体がちょっと減ってきているということで、高齢者数は4,000人ほどずっと変わらないという、一応現状にはなっています。ただ、今おっしゃっていただくように、外出がおっくうになる中で、多くの高齢者の方がサロンなどやっているけども、もっとふやしていったり、人数がふえてくるのではないかという御心配いただいているかと思うんですけども、さらにサロン数をもっともっとふやして、もっと歩いて行けるような地域で細かくというか、ちょっとでも出て行きやすいような形で、ふやしていくというのは保健福祉課挙げて努力しているところでございますので、御理解賜りますようお願いいたします。

また、出会いの場所ということで、サロンにかかわらず、いろんなカフェをされているとか、そういうことも協力したりとか、させていただいて、そういう機会をどんどんとふやしていけるように、ボランティアの方とか、そういう提案がございましたら、

協力をしていきたいと考えておりますので、これにつきましても、御協力、御理解賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） 高齢になると交通弱者という、当然もう起こり得るわけすな。まして、これだけ過疎化になってきている、そうしたら出会いがすごく少なくなってくる。現実問題として、そういう人らがいろんな不安を持っているわけよ。だから、それを解消しようと思えば、それはもちろん個人の努力は必要やと思うんやで。ただ、それだけでは対処しきれやんと思うんで、交通弱者の中で、まして過疎になってきて、出会いが少なくなってくる中で、出会いの場所の提供というのはどのように考えてますか。

○議長（美野勝男君） 保健福祉課長、湯上君。

○保健福祉課長（湯上ひとみ君） すみません、御質問にお答えいたします。

保健福祉課とかだけではなくて、いろいろ地域のほうへ行かせていただいて、御高齢者の方のお声なども直接聞かせていただいております。役場がさせていただいたりしているサロン以外にでも、やはり過疎地であっても地元の方々が、雨降ったら、ちょっと集まろうとか、実際にされているということもお聞きして、いろいろやっぱり地域で不安を抱えながらも、お互いに声かけ合うとか、集まられているという現状をお聞きしたこともございます。ただ、それが全てではなくて、本当に孤立してしまっている方もいらっしゃるかもわからないですけども、いろんな御意見をやっぱり伺いながら、出会いの場というか、何かそういう場所というのを、今後もサロンだけにかかわらず、検討はしていきたいと考えておりますので、御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） 2点目です。緊急通報装置なんかで、本人が発信してくれるという、こういうふうな話聞きました。確かにそのような話は聞いておりますが、これはあくまでも本人からの発信ということになると思うんですよ。そうしたときに、孤独死とかという現実問題として、何日か前に亡くなってたとかいう話を聞きます。そうしたときには対処できない、本人の体調がよければ、何か本人が問題を自分で発信できる状態であれば、それは対処できると思うんですよ。だけど、そういうふうな状態になったら困る、もちろんなったら困るからね。だから、安否確認というのはあるんじゃないかなと、こういうふうに思うのでね。実際問題として、それは1件に500円も月に

要ったら大分大変な金になるんかもわからんねんけども、必要でなかったら問題ないんやと思うんやけど、だから、こういうことが必要かどうかというアンケートなりなんなりをとることはできやんもんかね、こういうように考えますが、その点について再度答弁求めます。

○議長（美野勝男君） 保健福祉課長、湯上君。

○保健福祉課長（湯上ひとみ君） 西口議員の2番目の御質問にお答えいたします。

今、議員おっしゃられたように、自分から緊急事態を教えるのではなく、定期的に連絡をいただいて、それに答えるという形で、一日、毎日1回ということで、定期にありますので、早期発見といいますか、そういうことも効果あるのではないかとということで、私たちがこのお話も聞いて、いろいろ研究しているところですけども、本当にいい点があるなというのは感じております。ただ、先ほども言いましたように、自分からの発信というのも、これだけではちょっと難しいところもありまして、今後、研究はしていきたいと考えておるんですけども、離れて暮らしている方であっても、家族さんが毎日定期的に電話を入れるとか、そういう方もないことはないようなので、それも離れて暮らされていても、やっていただくこともお願いしたいなとも、行政としても考えるところもあるんですけども、何せいろんな状況はあるかと思しますので、この内容についても、先ほど申し上げたとおり、ちょっと研究していきたいと考えておりますので、御理解賜りますよう、よろしく願いいたします。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） 3点目、再質問します。

提言箱が案外少ない件数という、確かに総務課長言ってくれたのは、非常に少ない話ですな。だから、私、それ住民の意見が実際に行政に全て納得して意見も何もないねやよと、これなら文句ない。だけど、一般質問、みんなの一般質問見ても、そういうふうに結構たくさん意見が上がってくるということは、提言箱に対して、提言しやすい体制、役場が極力みんなの意見を取り上げるという方向にまだ至ってないんじゃないかな、こういうふう思うんですけどね。その辺の考え方を一度尋ねてみたいと思います。

○議長（美野勝男君） 総務課長、細峪君。

○総務課長（細峪康則君） 提言箱に確かに投函されている件数というのは、年間5件とか、そういうぐらいなんですけど、これ実際、内容を先ほどちょっと紹介もさせていただいたんですけど、ごみ袋の件であるとか、風力発電、それから路面の凍結、塩カ

ルをいろんなとこ置いてほしいとか、それから公園管理、草が生えているとか、そういう提言が多かったので、ごみ袋に対しても、持ちやすい、今まではくりにくかったけど、くくりやすいごみ袋に変わったとか、風力発電に関しては、いろいろ意見をどんどん言っていたているのと同じようなものもございましたので、結局、反映されては全然ないということではございませんので、その辺、御理解をいただきたいと思います。

そして、件数が少ない、提言箱への提言は確かに少ないんですけど、町長への電話であるとか、それから役場の代表メール、そういうところには、1カ月に一度は必ず来ておりますんで、そういうことでもいろいろ誠意を持って対応しているところでありますので、提言箱はふやせないですけども、いろんな媒体を通じて町のほうには意見を届けていただいているということで御理解をいただきたいと存じます。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） 4点目に移ります。

以前、そういうふうに紀の川市方面へもバスが行ってたという、だけど、社会事情というのは、当然変わりもてくる。そうして、そんなん考えたときに、絶えず世の中が変わっていく中で、変わってこないとは限らないわしよな。だから、まず必要性ということについては、調べるのは、これは別に難しいんやなし、直接バスをまだ動かすというんじゃなくて、まず要望があるかどうかということ把握する方向に持って行って、それをやってから、その中で要望が少なければ、それはもうしゃあないけど、多ければ、やっぱり実現に向けて働くというのが普通じゃないかなと思うんですよ。

世の中が変わっていつている、もちろん、誰でも今まで運転してた人が運転できなくなったりしてくるわけですよ。そして、そんなことを考えると、今ももともとあったものがなくなったという、それはそれで、そういうそれなりの理由があるんやろうと思うけど、時代が変わってきている中で、今もそれが必要ないかということについては、つながらないと思うんですよ。

だから、まずやっぱり定期的に必要度というのを調査して、そして、必要者が多ければ、それを実現に向けていくという、まず、だから調査ということについては、どんな考え持ってるのか、尋ねたいと思います。

○議長（美野勝男君） 総務課長、細峪君。

○総務課長（細峪康則君） 以前、貴志駅の登山口から貴志駅へのバスに関しては、主に通勤・通学の方を対象に、朝7時前ぐらいから登山口出発したとか、それから夕方

ちょうど帰ってくる方を迎えというか、そういうダイヤを組んでおられたようでございます。1カ月に大体50人から60人ぐらいの方が乗っておられたというふうに聞いております。

西口議員御提案のあります、時代が変わればそれはいろんな人の流れも変わる、それで調査もしていく、それは当然のことやと思います。実際、貴志方面とかには、貴志駅へ行かれているのか、それから買い物に行かれるか、また病院に行かれるか、いろんな方いらっしゃると思うんですけど、そういう方も含めて、調査といいますか、端的にすぐアンケートするというふうにはいかないかもしれないんですけども、何か調べていく、そして需要があるものかどうかというのをやっぱり考えていかないといけないというのは、必要だということは認識しております。ただ、貴志行きの便があればええな、イコールその方が乗るといふふうにはなかなかつながらない部分もあろうかと思っております。その辺の見きわめもしながら、ニーズがどれぐらいあるのかというのを研究してまいりたいと思いますので御理解をいただきたいと思っております。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） アンケートをとらなくて、どういうふうな形でニーズを捉えるっていう、その辺がまず、やっぱりそれは確かに行く便があったらええのになやけど、行く便があっても利用するとは、それはもちろん限らない。それはわかるんやで。だけど、行く便がない時点でそういうことを言ったところで始まらない話やろう。だから、やっぱりアンケートとるしかないんじゃないかな、アンケート以外で住民のニーズの捉え方があるのやったら、ほかの方法を一遍ちょっと教えてほしい。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 先ほどから総務課長が申ししておりますが、一つに、公共交通を考えたときに、今、町ではコミュニティバスを走らせているというのは承知のところでありまして、これにつきましては、町内各地域から、町の公共施設である支所、本庁、総合福祉センター、また厚生病院等々への公共的な交通機関として皆さんに利用していただいているところでありまして。議員がおっしゃっていただいている貴志川方面へのバスによる運行とかっていうことにつきましては、これはなかなかやはり町のコミバスではなかなか対応は難しい。しかしながら、以前にもバス事業者が運行してくれた経緯もございました。今はやまっているところでございますが、それについては、仮に復活とかということになるにつけても、やっぱりバス事業者等々の意見も聞いた上で、可

能かどうかということも見きわめていかなければいけないし、あくまでも事業主体はバスの事業者になろうかなと思っておりますので、議員もおっしゃられることもよくわかりますので、バス事業者と意見交換等々をしていきたいなということは考えておりますので、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） 5点目です。学校運営、コミュニティスクールになるという、これ実際にはまだことしからの話だと思うんですけどね、現実問題として、保護者やみんなが知恵を出し合って、学校運営にという、こういうふうが多分なろうかと思うんですけど、そうしたときに、全体で、生徒の親全部でコミュニティスクールって、そんな実際問題としては、なかなか何年も学年があることの中で、人数的には難しいのかなと思うんですけどね。そういう場合、役員の選任っていうのは、どういうふうを考えてるのか、ちょっと尋ねたいと思います。

○議長（美野勝男君） 教育次長、曲里君。

○教育次長（曲里充司君） 先ほどの西口議員の御質問ですが、選任方法につきましては、それぞれの学校長のほうから推薦をいただいた形で教育委員会が任命するというような形になっております。

以上です。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） 学校長の推薦という中で、そうしたら、保護者の意見というのはどこへ反映、だから、役員さんになるときに、役員さんというのは、当然、学校長が都合のいい人を役員でも始まらない話やさけ、本来は協働で学校運営ということを考えたときに、ある程度意見のある人でないと成り立っていかないような気がするんですけど、その点、再度、答弁求めます。

○議長（美野勝男君） 教育次長、曲里君。

○教育次長（曲里充司君） 先ほどの委員さんの推薦のことですが、委員さん的には保護者のみではなくて、地域の住民の方とかも学識経験者の方も入るような形での委員の構成になっておりますので、すみません。

○議長（美野勝男君） 6番、西口 優君。

○6番（西口 優君） 6点目の、学校33名中28名になったという、こういう

ふうになったら、実際問題として大変な比率やしな、比率的には。そうしたときに、そら、個人の問題といや、そら個人の問題になる。そら、どこの学校へ行こうと、そら自由やけどね。だけど、そういうふうにしても、学校の存続ということになると死活問題でしょう。だから、そういうふうに言い出したら切りのない話なんやけど、まずやっぱり生徒、保護者らが行かしたい学校につくるといふ、魅力的な学校づくりということについて、どのように考えているか、ちょっと尋ねたいと思います。

○議長（美野勝男君） 教育次長、曲里君。

○教育次長（曲里充司君） 先ほどのコミュニティスクールの関係ともちょっと若干重なることがございますが、子供たちのために生まれ育った地域に密着できるような教育、郷土愛とか、そういうような形、自分の生まれた地域をもうちょっと知ってもらおうとかがあっていう形で、学校的な魅力を発信できればなと考えております。

○議長（美野勝男君） これで西口 優君の一般質問を終わります。

続いて、10番、小椋孝一君。

（10番 小椋孝一君 登壇）

○10番（小椋孝一君） 先ほど、同僚議員の中に、昨日の近畿圏内の大阪、京都で大変な地震が発生をいたしました。そのために死亡された方、負傷された方がたくさんおられますけども、ここで哀悼の意を申し上げたいと思います。それでまた、被害に遭われた方にも早急に回復をすることをお見舞いを申し上げたいと思います。

私のほうから、のかみふれあい公園の今後の活性化について質問をさせていただきたいと思います。

この質問をする前に、以前、担当課のほうから資料をいただいておりますので、それを私は分析して質問をさせていただきたい、こういうふうに思います。

のかみふれあい公園も平成12年に開園して以来、19年目を迎え、20年を目の前に控えております。しかし平成22年以降、入場者数が20万人を超えることができず、平成28年には、入場者数、営業収益ともに減少し、平成29年に至っては初めて2年連続の減少見込みとなっております。減少傾向が続いております。

よって、当園の今後の活性化について、当局はどうお考えなのか、次の質問に対する答弁をお聞かせ願いたいと思います。

三つあるんですけども、一つは、パークゴルフの集客力を今後どのように上げていこうとお考えなのか、現在、紀の川市でも開設され、かつらぎ町でも開設される計画が進

んでおります。利用客の奪い合いにならないように、両自治体とも今後連携をとっていく必要があるのではないのでしょうか。

2番目に、収益減少の原因究明及びそれに対する対策は講じておられますか。例えば、バーベキューサイトにおいては1,000人以上の利用客減少見込みとなっておりますが、施設の老朽化等が原因ではないのでしょうか。

3番目に、園全体のPRについてどうお考えでしょうか。例えばホームページの施設の紹介等に画像を取り入れて、自然環境や施設の利用の楽しさをもっとわかりやすく伝える方法もあると思うわけですが、いかがでしょうか。

これについてお答えをお願いいたします。

(10番 小椋孝一君 降壇)

○議長(美野勝男君) 産業課長、米田君。

(産業課長 米田和弘君 登壇)

○産業課長(米田和弘君) それでは、小椋議員御質問ののかみふれあい公園の今後の活性化についてお答えさせていただきます。

のかみふれあい公園については、1万平方メートルの芝生広場、県下で有数のパークゴルフ場、オートキャンプ場、またバーベキューサイトを有する町屈指の観光施設となっております。

しかしながら、議員御指摘のとおり、パークゴルフの利用者は平成26年度の3万8,014人をピークにここ数年減少して、平成29年度は3万1,789人と約15%落ち込んでおります。

まず一つ目のパークゴルフの集客力を今後どのように上げていくかとの御質問ですが、今年度からの改善策といたしまして、新たな利用者獲得のため、各学校や近隣市町各種団体への働きかけ、商工会や事業所での福利厚生利用等、レクリエーションとして活用してもらうためのPR活動、また来年の秋に開催されますねりんピック紀の国わかやま2019において、パークゴルフ競技がふれあい公園で開催される予定となっておりますので、それに向けた練習利用等PR活動を積極的に行っていくこととしています。

その一環として、まず身近なところから、この5月には、役場職員やその家族の方々を対象に大会を催しまして、今後も継続して開催し、競技人口の拡大に努めてまいりたいと考えています。

また、この秋には、かつらぎ町に新たにパークゴルフ場が開設されると伺っています。

新しい施設ができるということで、開設当初は当町の利用が一時的に落ち込む可能性がございますが、新たな場所ができるということで、新規の競技人口の増加が期待できる上、一昨年から進めていますコース改修により、改めてふれあい公園のコースのすばらしさを再認識していただき、再び足を運んでくださるといふ相乗効果も期待できると考えます。

なお、かつらぎ町のコース建設に当たり、ふれあい公園を参考としていただいております、かつらぎ町役場の方とも連携を密にして、相互に協力できる関係を築き、パークゴルフ人口の底上げに努めております。

また、二つ目の収益減少の原因究明や対策については、利用者の高齢化の進行による自然減のほか、さまざまな要因が関連するかと存じますが、平成29年度においては、5月の連休の雨や10月の行楽シーズンに雨や台風が続いたのが大きな要因と考えるところであり、公園にかかわらず、町内、県内全域の観光客数が減少している状況となっております。

この収益減少の主な要因となっておりますのが、収入の大きな割合を占めるパークゴルフ利用者の減少であり、そのための対策として、かかる経費の削減や、飽きのこない魅力ある施設とするため、芝生張りかえや、樹木の伐採などのコースの整備や、公園内の遊具の新設などを順次進めてまいりました。

また、平成29年度のバーベキューサイトの利用人数の減少の原因ですが、同じく5月の連休の雨、また10月に雨が降り続いたことが大きな要因と考えております。

施設の老朽化が原因ではないかとのことですが、天気の良い休日においては予約がいっぱいの状態であり、清掃が行き届いていないことや特に必要な改修箇所等も見受けられないため、老朽化が大きな原因ではないかと考えております。

しかしながら、平成12年の開園以来20年近くが経過し、利用者のニーズに沿った改修など、順次必要な改修を進め、園全体の魅力向上に努めたいと考えます。

三つ目の公園全体のPRにつきましては、議員おっしゃるとおり、公園の魅力を最大限にお伝えするために、動画なども取り入れ、芝生広場や遊具はもちろん、野外ステージの音楽などのイベントに有効に活用できることを発信してまいりたいと考えます。

さらに公園を活用した健康増進の効果や、公園を含め町内を周遊できるような情報発信を積極的に行えるよう、利用者のニーズや関係者皆様のお知恵をおかりしまして、町内施設の魅力を十分にお伝えしてまいりたいと存じます。

以上、のかみふれあい公園の今後の活性化についての答弁とさせていただきます。

(産業課長 米田和弘君 降壇)

○議長 (美野勝男君) 10番、小椋孝一君。

○10番 (小椋孝一君) こののかみふれあい公園も、ただいま、私が質問したとおり、平成12年から、これは県の動物愛護センターの造成によって、前黒西町長のお墨付きと言ったらおかしいけども、併設して、のかみふれあい公園をもっともっと活用して、健康増進につながるよう何かしたいなということで、多分、この議員の中で1名か2名ぐらいだったと思うんですけども、北海道がパークゴルフの発祥地ということで行かれて、あれをつくったということから踏まえて、本当に健康増進のためのパークゴルフやということは、本当私もわかってますし、皆さんもわかっているとおりです。

先ほど、今後本当にこのパークゴルフをどのように活用するかということで、先ほど、今度、今、紀の川市の打田町にできてると、伊都郡のかつらぎ町の下水処理場の横のところにつくるということなんで、意外と人数が流れる可能性もあるし、先ほど連携をとりながらやってほしい、これやっていったらいいと思うんです。やっぱり町にももちろんPRもさることながら、そういうことに、町内だけじゃなくて、町外の方にもこういうことを知らしめる、使ってちょうだいよというようなPRも必要ではないかなと、こういうふうに思っております。

平成12年から平成29年までの推移をずっと見てみますと、平成21年までがパークゴルフ、ずっと結構人数がそうそう減ってないんですけど、全体的に見て利用がされておるんですけども、中にはいろいろ最近条例改正しましたね。夕方早くしまるのよって、私も説明をして、そうじゃないんやということで、納得はされているのかされてないかわかりませんが、やはり、それだけやっぱり紀美野町のパークゴルフ場というのはすばらしいものだと思っておりますし、もっともっと利用価値があるんじゃないかなと。

特に公認を取っているパークゴルフ場ということで、国体も、27年に国体がされて、もちろん今度ねりんピックって先ほど言いましたけども、ねりんピックはここでするんやから、お客が来るのは当然ですわ。やっぱりそうでなくて、年間通してずっと維持できる方法というのは、やっぱりもっと町内の方にも来てもらい、町外の方にも来てもらいというのは、地元のパークゴルフ連盟とも連携をとりながら、いろいろな競技をもっともっとふやしていつてすることも一つの施策であると思えます。

例えばゴルフについて言うと、今、和歌山県に和歌山県ゴルフ協会というのがあるんですけど、その中に和歌山市のゴルフ協会があって、岩出のゴルフ協会があるんですけども、そこらがずっと継続的にやって、人がものすごくふえているんです。やっぱりそういうような気持ちになって、やっぱり集客数を広げる。特に各県では、あのコース管理というのは、今、国木原のゴルフ場が管理して、すごくいいコースになっていますけども、それをもっともっと利用してやっていかれたら、もっともっと集客力がずっと持続するのではないかと、こういうように思いますが、それについて再度のパークゴルフについての答弁をお願いします。

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

○産業課長（米田和弘君） 小椋議員の御質問にお答えいたします。

パークゴルフの利用につきましては、現在、ほぼ町内の利用というのは少ない状態です。2割にも満たないというような状態になってございます。そして、ほとんど利用されている方が高齢者の方がほとんどというような状態になっておりまして、子供さんの利用は、全体の2%程度と非常に少ない状態となっております。

パークゴルフ人口の増加というものについて考えたときに、現在、今まででしたら大人の方から高齢者のほうに移行するような状態というような、競技人口の変化というような形になっておろうかと思っておりますけども、底上げのために、子供さんの利用も促していく必要あるかなと思っております。子供さんの利用を促すことによりまして、大人の方の利用も当然上がってこようかと思っております。近隣の紀の川市、かつらぎ町、そちらのほうにも、そちらを利用されている方というのは、うちの公園も利用されている方というのがほとんどの利用状況になっておりますので、紀の川市は9ホールしかないのです、そこを2周回って1ラウンドというようなプレー形態となっておりますので、ちょうど紀美野町の火曜日の休みの日に、紀の川市を利用される方というのが多くなっておりますので、町のふれあい公園のパークゴルフ場をますます活性化するために、コース改修を進めている中で、その魅力というのを今後ますます上げていくためにも、PR活動を積極的に行っていきたいと考えておりますので、御理解賜りたいと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（美野勝男君） 10番、小椋孝一君。

○10番（小椋孝一君） 課長のほうから前向きな答弁をいただきましたけども、答弁を無視ならんように、どんどん、どんどんやっぱり発信をしていただいて、やはり

紀の川市もできる、かつらぎ町もできる、うまく三つのパークゴルフ場が栄えるように連携をとりながら、今後やっていただけたらいいなど、それはもう大賛成で、やりますというんじゃなくて、今度やっていくように、心がけて、心がけてというか、努めていただきたいなど。

人口も結構、そないそない減ってないですね、これから見るとね。やっぱりそれを維持できるような方法を考えていただきたいなど、こういうように思います。

次にですね、収益性に関してですけれども、バーベキューサイト、それでまた中の芝生広場という、当時、あそこで食堂も入っておりますけど、当時、できた時分に、私もあそこをNPO法人で理事長させていただいて、食堂経営をさせていただきました。非常に高く利用料を払わせていただいて、それでも採算がとれたときがあるんです。今、副町長、今うなずいてますけども、当時はここが物すごく収益性があって、職員の人件費もここから出たことがあったと思うんですね。私、指摘させていただいて、こんなおかしいやないかという、その翌年に、収益のお金をもとに戻したということがあったんです。

当時、できた時分にあそこノアディ城、去年でしたか、遊戯器具直してましたね。だからやっぱりそういうことが、せつかく直したのであれば、やはり当時は保育所が観光バスで来て、あそこで1日遊ばせた、そういう時代もあって、ものすごくやっぱりお客さんも多かったのも、保護者の方、連れていって、1日あそこで遊んだという。と同時に、芝生広場でドッグラン、何か犬の円盤みたいなやつでびゅーっと、大会があったりして、県のほうも力入れてもうて、いろいろやったわけですね。

だから、やっぱりそういうもっともっとやっぱり身近にしてやっていく、何かをやっぱり昔のそういうことを集客力を図っていくならば、新しいことをやっていかないと、なかなかできるものでは、人数のふやすというのもできるものではないし、例えば今、高速道路なんか、新しい高速道路の中にサービスエリアなんか、昔はトイレとちょっとした土産物ぐらいしか置いてなかったですけど、今、一宮かなんかに新しいサービスエリアできましたね。それを求めてやっぱりお客さんが行って、すごい人数の集客力を集めているという、そういうことがあると思うんですね。だからやっぱりそういう新しいニーズの発想というものを考えていかないといけないなど。

例えば、先般、この議会の中で承認を得て、ドローンの予算措置があって、この町にドローンがあると思うんです。これ、そういうやつを利用して、画像にして、やっぱり

あそこの全体の雰囲気をもっときれいにしてやな、写して動画で、さっきホームページの作成の中で、もっともっとやっぱりそういうことをされるとか、やっぱりやっていかないと、なかなか人数の集客というのは、非常に難しいなど、こういうように思います。

特に、あそこの夜のキャンプの跡地で、ちょうど岩出の高速の夜景が物すごくきれいですね。だから、そういうところもちゃんと、そういう画像にして流すとか、そういうような観点を、新しい感覚で見えていかないと、これからはお客さんというのはどんどん、どんどん減ってくると、私はそう思うわけですね。だから、そういう中では、やっぱり新しいことをやっていく必要はあるのか、そこらちょっと聞かせていただきたいと思います。

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

○産業課長（米田和弘君） 小椋議員の御質問にお答えいたします。

議員御提言のとおり、新しい感覚で集客を進めていくということは、とても大切なことだと思っております。昨年12月なんですけれども、一応、スターパーティーということで、観光協会が主体で、夜のふれあい公園の活用ということで、一応、天気の方はちょっと悪かったのでありますけれども、させていただきました。その中で、肝心の星の方は、ちょっと天候の都合で余り見えなかったところではあるんですけれども、議員おっしゃるとおり、夜景のすばらしさであるとか、ふれあい公園は今まで夜間になかなか利用したことはなかったんですけれども、夜間イベントの可能性というの、十分に認識したところでございます。

去年、芝生広場に関しましては、ちょっと夏場のほうの利用が非常に少ないという認識もありまして、昨年、ミストを2カ所つけさせていただきました。ノアディ城の近くと、ふれあい公園の近くに設置させていただいたんですけれども、遊ばれる子供さん方にいたしましては、大変好評を得たところでございます。そういった新しい方法、芝生広場のほかにステージの活用についても、積極的に利用していければなと思っておりますので、以上、答弁とさせていただきます。

○議長（美野勝男君） 10番、小椋孝一君。

○10番（小椋孝一君） 課長のほうからもステージとか、そういう話が出ましたけれども、私もあそこに野外ステージの舞台があるわけですね。電気が今、容量が小さいので、あれかと思えますけど、やはり今まだ物を売ったり、そういうことに今されていると思うんですけど、やはりああいうところに、若者が音楽をされたい、何かされた

いという、何も音が別に関係ないんですからね、そういう人が何ぼでも探しているところがあって、そういうところもやっぱり発信のルートとして、やっぱり使ってちょうだいよということで、やっぱり宣伝効果もすることも必要ではないかと思うし、たまたまですね、これ有田川町の鉄道公園というのがあるのかな、和歌山新報か何かに載ってまして、あそこでゴールデンウィーク限定で、小さいD51の機関車を走らせたと、すごい人気やったということで、たまたま、あそこにもいい場所があるんで、これはできるかできないかわかりませんが、これは一つの例ですけど、何かやっぱりあそこに行ったら何かがあるよ、子供は非常に楽しいよというような施策をしていかないと、本当に集客率が悪くなると、こういうように思います。

ただ、もっとノアディ城をもうちょっと活用するというのと、それで、ちょっと気になるんです。ここ第2次紀美野町の長期総合計画の中には、ただ単に、主な事業、パークゴルフ、ゲートゴルフの普及というだけであって、人数が、平成27年には2,500人、平成33年に2,500人にしたいよという、こういう項目しかないんで、やっぱりもっと、これだったらほんまにやる気があるんかないんかって、こういうような気がしますので、もっともっとやっぱりそういうことから加味して、何かをしていただきたいなど、こういうように思います。

それと、観光の資源の中に、あそこには観光施設の使用料、そしてまた農業施設の使用料というのがあるんですけども、たまたま販売所をちょっとのぞきにいったんですけども、何か、たまたま農産品が非常に少なかったんだろうと私は思いますけども、あそこせっかくいい産品所がある中で、地元を、地元をもうちょっと活用して、時にはあの近辺というのは大藪地区とか国木原地区とか柴目地区、あの近辺はミカンも非常においしいところですし、ブドウ、スイカとかというのは非常にそういういい物があるし、ああいうところをもうちょっと利用して、商品を入れてもらって、来るお客さんに販売をすることによって、どんどん、どんどん、もうちょっと売り上げも上がっていくのではないかなということと私は思いますが、そういう地元の方に、あそこ組合があるんです、わかりますけども、そういう新しい感覚で入れてくれよとか、そういう発信したことはあるんか、そこをちょっと一遍聞かせておいて。

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

○産業課長（米田和弘君） 小椋議員の御質問にお答えいたします。

緑の郷グループであるとか、そういった団体のほう、あと商工会のほうも販売してい

ただいております。時期によりまして、農産物でございますので、ない場合もあります。ただ、試食の方法であるとか、そういった展示の方法であるとか、また商品の品ぞろえであるとか、そういった部分について、新しい見せ方というんですかね、そういった部分でもちょっと依頼したことはございますけれども、今後またふれあい館のあの部分に農産物を売っているというのは余り御存じない方もいらっしゃると思いますので、その前のほうの宣伝効果も高めるように、今後検討してまいりたいと思いますので、御理解賜りたいと思います。

○議長（美野勝男君） 10番、小椋孝一君。

○10番（小椋孝一君） 農林業の施設の農産物に関しては、これ本当にいろんな問題があるなと思うんですけども、収益性を考えると、20年から、もうずっと29年まで赤字の続いている、御存じのとおりと。これはやっぱり特に28年、29年、ずっと赤字なんですね。だからこれは何かやっぱり考えていかないと、これはやっぱり非常に難しい問題、全体的な絡みからいうと難しい問題ではないか、それをやっぱり打開するのをどないするんかという、担当課のほうに一遍じっくり考えていただいて、我々も協力はしますけれども、資料としてやっぱり出ていってる限りは、非常に難しいところがあると思うので、もうちょっと見直しして、やはり先ほど言いましたけれども、いかにあそこにお客さんが来てくれるかということを観点にして、考えをする。ホームページを見てくると、昔からのパークゴルフの全然さわってないところですね、だから、そこに動画を入れて、いろいろなところから、観点から見て、物をあれば買ってくれる。そして、またいろいろなことに対して子供を連れて来て、いろいろなことを提案できる方法を、課のほうで考えていただいて、集客力を上げる方法をもっと模索をする方向を、考えていただきたいということで、再度の答弁をお願いしたい。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 議員からいろいろ御提言、意見をいただきまして、まことにありがとうございます。おっしゃるように、平成12年7月にオープンして間もなく20年を迎えるということでございます。20年たって当時から比べれば、全体のお客さんの数は少し減っているということがありますが、ふれあい公園の特別会計の経営状況としては、独立採算でこれているというのは非常にありがたいなと思ってございます。

それに甘んじてしまっはいけないということは常々思っているところでございます。

ふれあい公園は、現在、動物愛護センターとともに、紀美野町の大きな大きな観光資源の一つであるというのは、十分認識していて、町にとってはなくてはならない施設やということも、もう十分認識しておる中で、今後さらにふれあい公園の充実を図って、もっともっと皆さんに大事にしていけるような公園にしていきたいなと思っております。

議員言われた農林水産業の使用料ということで、あそこの店は、補助金の関係もあって、食材供給施設というような形で設置したところでもあります。課長が申しました緑の郷ふれあい販売所も、開設当時は52軒ぐらいの加入者によって運営を始めてきたんですが、その後、JAがとれたて広場も建設されたということで、やはり少しはそちらのほうへ商品が流れているのは実態ではありますが、農家の方々にとっては、やはりいい物をつくって、それを買っていただきたいということで、それで生産意欲がどんどん、どんどん向上するということがございまして、とれたてへ流れるというのは、それは決して悪いことじゃないなというふうに思っておるんですが、やはりそういうことで、ふれあい公園管理棟の中における緑の郷の販売が少し当初から減っているというのは、これも事実であります。

しかしながら、我々としたら、そこで何とか頑張っていたきたいということで、そのふれあい緑の郷のグループもしっかり応援してきて、今に至っているところでございますので、もっともっと公園としての魅力を上げて、大勢の人が来てもらって、そしてふれあい館の中でもキミノズカフェでも利用していただく。また、緑の郷もいろいろな物を買っていただくというような形に、今後さらに充実していきたいというふうに考えておりますので、いただいた意見は貴重な意見として活用させていただきたいと、このように思いますので、どうか今後ともよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（美野勝男君） 10番、小椋孝一君。

○10番（小椋孝一君） 今、副町長のほうからの御提言をしていただいたわけですが、甘んじているというけど、現実的にもうマイナスというイメージが出てるんで、やはり当初は特別会計では、一般会計から持ち出しが全然なくて、ずっと運営されてた。だから、そのことを踏まえながら、やっぱりずっと29年までこれ私資料いただいているんですけども、ほとんど赤字で来ている以上は、何かやっぱり考えないと。

やっぱり緑の郷グループも、少なく減ったというのは、やっぱりそれは売れないから

減っていつているんであって、逆にやっぱりもうちょっと、あの場所というのはものすごく農地関係がいいものがとれるんで、その人たちにも今度入ってこれないかという、緑の郷の代表者に伝えてもらって、特にやっぱりあの辺ではミカン、ブドウ、スイカ、ここらがやっぱりおいしい物つくれるところなんで、そういうところにも入ってもらって、やっぱり販売するとか、そういうことも考えながら、売り上げを伸ばしていけるようにすることによって、またお客さんもふえてくるのではないかと、こう私は思うんで、それも踏まえて、一遍、執行部、担当課のほうで十分練っていただいて、緑の郷さんにも協力してもらって、そういうことをどんどん会議されてると思うんですけども、売り上げが伸びるように切磋琢磨して、集客力を上げるようにしていただきたいなということで、もう一度お答えをいただきたい。

○議長（美野勝男君） 副町長、小川君。

○副町長（小川裕康君） 議員からいろいろ御意見、御提言いただいております。緑の郷グループについては、グループ会員で運営していただいているんですが、やはり会員が減ってくるということは、グループの弱体化につながるわけなので、会長さん等々もいろいろ協議して、グループとしての体制をもっと強化していけるように、こちらとしても応援、支援をしていきたいと思っております。

ふれあい緑の郷とすれば、収支はそういうことでよろしくない。ただ、ふれあい公園が特別会計としましては、当時、一般会計からの繰り入れというのはありましたけれども、それは建設当時、その年度だけであって、その後は独立採算で運営できているということで、大変これはありがたいなと思っておりますので、これは皆さんの御協力もいただきながらできているということは、非常にうれしいというふうに思っております、これは今後も続けていきたいなというふうに思っております。

公園としての機能、そして、また緑の郷をもう少しまた頑張っていただけるように、こちらもしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、どうかまた応援のほうもよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（美野勝男君） 10番、小椋孝一君。

○10番（小椋孝一君） わかりました。本当に前向きに頑張っていただきたいなと思ひます。

最後に、もう一度、くどいようですけども、一応、あそこのふれあい公園の、先ほど

言うたように画像でつくっておるとか、新しいホームページでつくって、集客力が上げられるように、画像でするよというふうにちゃんとした答弁をいただきたいと、こういうふうに思います。

○議長（美野勝男君） 産業課長、米田君。

○産業課長（米田和弘君） それでは、小椋議員の御質問にお答えいたしたいと思
います。

ホームページのほうなんですけれども、議員おっしゃるとおり、古いような写真にな
ってございます。町のふれあい公園としましたら、芝生広場、ノアディ城、それからパ
ークゴルフ場、オートキャンプ場とあると思います。その魅力を十分に発信するた
めにも、動画を活用して、見せる方法をちょっと工夫したいと思っております。手法につ
いては、またドローンも場合によっては活用するような形で整備していきたいと思
いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（美野勝男君） これで小椋孝一君の一般質問を終わります。

本日の日程は全部終了しました。

お諮りします。

通告者全ての一般質問が終了しましたことにより、6月20日は休会としたいと思
います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（美野勝男君） 異議なしと認めます。

したがって、6月20日は休会とすることに決定しました。

散 会

○議長（美野勝男君） 本日は、これで散会します。

（午後 3時11分）